

datasaver®

リファレンスガイド

プリンスンテクノロジー株式会社

2013年12月 第二版

Copyright©2013 Princeton Technology, Ltd. All Rights Reserved.

－ このページは余白です －

CONTENTS

はじめに	6
安心してお使い頂く為に	6
安全上のご注意	6
ご使用上のお願い	6
免責事項について	7
著作権等に関する注意	7
本書について	7
ご利用の前に	8
設置環境についての注意	8
ご使用にあたって	9
バックアップ対象のコンピューターについて	9
製品の特長、機能概要	12
ご注意点	12
第 1 章 製品インターフェース	13
1.1. DS-S-2T	14
1.1.1. 前面インターフェース	14
1.1.2. 背面インターフェース	15
第 2 章 管理者ガイド	16
2.1. datasaver S 本体への接続	17
2.1.1. 設置環境の確認	17
2.1.2. 電源の入れ方・切り方	17
2.1.3. 導入時、datasaver S に接続するには	18
2.1.4. 管理者 PC の IP アドレス変更する	18
2.1.5. ウェブブラウザを開く	21
2.2. 管理画面	22
2.2.1. 概要画面	22
2.2.2. datasaver S ネットワーク設定	23
2.2.3. datasaver S の日時を変更	25
2.2.4. datasaver S の管理者詳細設定変更	26
2.2.5. datasaver S のファームウェア アップデート	27
2.2.6. datasaver S の工場出荷時にリセット	28
2.2.7. datasaver S のディスク管理	29
2.2.8. datasaver S の再起動・シャットダウン	31
2.3. エージェントの管理と作成	32
2.3.1. エージェント管理	32
2.3.2. 新しいエージェントの作成	33
2.3.3. エージェントのリカバリポイントの管理	36
2.3.4. エージェント設定の編集	38
2.4. 管理者確認項目（より確実に運用して頂くために）	40

2.4.1. 確実な復旧データを保持する為のメンテナンス	40
2.4.2. クライアント状況確認方法	41
2.4.3. リカバリポイントの確認方法	42
2.4.4. エージェント画面確認方法	42
2.4.5. ディスク状態の確認方法	43
2.4.6. 確実に datasaver S を安定動作させる為のメンテナンス	45
2.4.7. サーバー本体の負荷状況確認	46
2.5. ログファイルと E メールアラート	47
2.5.1. ログファイルの保存	47
2.5.2. Windows イベントログの保存	47
2.5.3. E メールアラート設定と種類	48
第 3 章 ユーザー・ガイド	50
3.1. PC ヘソフトのインストール・アンインストール	51
3.1.1. datasaver S エージェントのインストール	51
3.1.2. datasaver S エージェントアップグレードのインストール	53
3.1.3. datasaver S エージェントのアンインストール	55
3.2. datasaver S エージェント画面紹介	56
3.2.1. datasaver S エージェントの起動	56
3.2.2. システムメインメニュー	57
3.2.3. バックアップ	57
3.3. datasaver S エージェント設定	58
3.3.1. 環境設定	58
3.4. フルバックアップの開始方法	60
3.5. フルバックアップのキャンセル	62
3.6. フルバックアップ途中で PC をシャットダウン	62
3.7. 連続差分バックアップ	63
3.7.1. 連続差分バックアップとは?	63
3.7.2. 連続差分バックアップの簡単な図式	63
3.7.3. 連続差分バックアップの停止	64
3.7.4. 不具合セクタ検知が表記されたら	65
第 4 章 リカバリガイド	66
4.1. バックアップ対象 PC のドライバがリカバリツールに対応しているかの確認	67
4.2. datasaver S で最新のリカバリポイントを作成	67
4.3. ファイルおよびフォルダーの復旧	69
4.3.1. リカバリポイントを見る方法・ファイル/フォルダー復旧	69
4.3.2. 専用解凍ソフトのインストール	71
4.3.3. 復旧したファイルの解凍方法	71
4.4. 全システムの復旧	72
4.5. 復旧後のフルバックアップ	78
付録	81

付録 1. 制限事項・注意事項.....	82
付録 2. ソフトウェアの使用許諾契約.....	83
カスタマーサポートお問い合わせ先.....	91

はじめに

安心してお使い頂く為に

お買い求め頂いた製品(本製品)のご使用の前に、必ず本書をお読みください。本書にはご使用の際の重要な情報や、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全にお使い頂く為に、守って頂きたい事項が示されています。本書は、必要な時にすぐに参照出来るように、お手元に置いてご使用下さい。

安全上のご注意



■ datasaver S 本体の取扱について

- もし異常な音や異常な臭いがしたり、過熱、発煙、変形したときや、落としたり、強い衝撃を与えた時は、直ぐに、正しい電源の落とし方に基つき、電源を切った後、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。そのまま使用しますと、火災・やけど・感電の恐れがあります。
- 分解・改造・修理しないで下さい。火災・感電・故障・ケガの恐れがあります。
- 通電中の本体に布などを掛けたり、暖房器具の近くに置いたりしないで下さい。また、通風孔に触れたり、塞いだりしないで下さい。内部の温度が上がり、火災・やけど・故障の恐れがあります。
- 本体の上または近くに、「花瓶・コップ」などの液体の入った容器や、「ステーブル・クリップ」などの金属物を置かないで下さい。
- 異物(金属片・液体など)が本体内部に入りますと、火災・感電の原因となります。異物が内部に入った場合は、直ぐに、正しい電源の落とし方に基つき、電源を切った後、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
- ぐらついた台の上、傾いたところ等不安定な場所に置かないで下さい。落ちたり、倒れたりしてケガをする恐れがあります。
- ケーブル等を本体に接続したり、取り外したりする場合は、【管理者用ガイド】に記述されてあるところ以外は絶対に開けたり、使用しないで下さい。故障の原因となる恐れがあります。

ご使用上のお願ひ



■ datasaver S 本体の使用環境、保管場所および取扱いについて

- 直射日光が当たる場所、締め切った場所、暖房機器の近くなどの温度が高くなる場所に置かないで下さい。故障・誤動作・記憶内容の消失の原因となります。
- ほこりの多いところに置かないで下さい。故障・誤動作・記憶内容の消失の原因となります。外部にほこりが付いた際は乾いた布で取り除いて下さい。内部にほこりが入った時は、お買い求めの販売店または、当社サポートまで点検を依頼して下さい。別途有償になります。
- 急激な温度変化を与えないで下さい。水滴が付着(結露)し、故障・誤動作・記憶内容の消失の原因となります。
- 製品の上に物を乗せたり、物を落としたりしないで下さい。破損・故障の原因となります。
- お手入れする時は、ベンジン・シンナーなどを使用しないで下さい。変質・変形・変色の原因となります。
- 本製品仕様中に記載されている未対応 OS やサービスパックや暗号化や SQL データベース等のアプリケーションソフトを使用する場合は、本製品で使用可能かどうかは、お買い求めの販売店または、当社サポートまでご連絡ください。
- 本製品仕様中に記載されている未対応 OS やサービスパックやアプリケーションソフトが原因で発生した障害(お客様へのケガ、財産への損害および製品本体の故障によるデータの消失など)については、当社では責任を負いません。あらかじめご承知ください。

免責事項について

- 地震、雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本製品および本製品に付属のソフトウェアの使用または使用不能から生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等について、当社は一切責任を負いません。
- 本書の記載内容に沿わない使用方法により生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアなどとの意図しない組み合わせによる誤動作やハングアップなどから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 記憶装置（ハードディスクなど）に記憶された内容は故障や障害の原因にかかわらず保証致しかねます。
- バックアップはディスクをブロック単位でイメージとして作成しても、ディスクにエラー等不具合がある場合は、全てのデータを保証するものではありません。従って、重要なデータは他の媒体へも2重に保存をしておくことをお勧め致します。本製品はデータのバックアップ・リカバリを完全に保証するものではありません。
- 本製品および本製品に付属のソフトウェアの仕様および外観は、改良の為予告なく変更することがあります。
- 本書に記載の操作説明は使用する OS のバージョンにより相違がある場合があります。

著作権等に関する注意

音楽用 CD 等各種 CD、TV 映像等、インターネットホームページ上の画像等著作権の対象となっている著作物を複製、編集等することは、著作権法上、個人的にまたは家庭内でその複製物や編集物を使用する場合に限って許されています。利用者自身が複製対象物について著作権を有しているか、あるいは複製等について著作権者等から許諾を受けている等の事情が無いにも関わらず、この範囲を超えて複製・編集や複製物・編集物を使用した場合には、著作権等を侵害することとなり、著作権者等から損害賠償等を請求されることとなりますので、そのような利用方法は厳重にお控えください。また、他人の肖像が含まれる画像データを利用する場合、他人の肖像を勝手に使用、改変等すると、肖像権を侵害することとなりますので、そのような利用方法も厳重にお控えください。また、著作権を有するソフトウェア等は、各メーカーの使用許諾契約書の条項が適用されます。

本書について

本書の構成は次のとおりです。

- | | |
|------------------|-----------------------------------------------------------|
| 第 1 章 製品インターフェース | 各製品の前面および背面のインターフェースについて、および配線方法や付属品について解説しています。 |
| 第 2 章 管理者ガイド | datasaver S 本体の詳細設定や運用・メンテナンス方法など、主に管理者様向けの内容について解説しています。 |
| 第 3 章 ユーザーガイド | バックアップの対象となるコンピューター側の設定や運用方法について解説しています。 |
| 第 4 章 リカバリガイド | コンピューターの復旧方法について解説しています。 |

ご利用の前に

設置環境についての注意

➔ 適温は 25～28℃の室内環境

本製品の使用温度範囲は 5℃～35℃ではありますが、設置環境室温が高温になると、本体内部の温度上昇により、故障の原因になる恐れがございます。勤務時間外に空調を停止している場合、室温が異常に高温になることがあります(特に夏場)。そのような場合などは、勤務時間外に本体をシャットダウンしていただくことをお勧めいたします。

➔ 空気の流れ

datasaver S は前面から空気を吸い、中に溜まった熱い空気を、背面から逃がします。その為、設置場所は、直射日光を避け、温度、湿度、換気の良い場所に設置して頂きますようお願い致します。datasaver S の前後を壁などで塞ぎますと、空気がこもり、吸排気が出来ず、本体内部の温度が上昇し、故障の原因となりますので、前後の空間は十分に空けて頂きますようお願い致します。

➔ 周囲の空間

datasaver S シリーズは、放熱効果を高めるためにアルミボディを採用しております。本製品の周囲に十分な空間が確保できないと、放熱効果が低下し、本体各部の温度が上昇して、故障の原因となりますので datasaver S シリーズに限らず、本製品の空間は十分に空けて頂きますようお願いいたします。特に本体底面に放熱機構を備えているので、カーペットなど熱のこもる場所に設置しないで下さい。

➔ スイッチングハブ

datasaver S 並びにバックアップ対象コンピューターのネットワークには、なるべく、スイッチ機能(ギガビット対応)が付いたハブを使用して下さい。

➔ LAN ケーブル

LAN ケーブルは添付のものをご使用いただくか、市販のカテゴリ5e 対応の LAN ケーブルをご使用ください。なお、LAN ケーブルの取り付けの際は、LAN ケーブル差し込み口に、「カチッ」と音が出るまで、しっかりと差し込まれているかご確認ください。また、ケーブルが断線していないかを確認し、もし古いものでしたら、新しいものをご使用頂くようお願い致します。

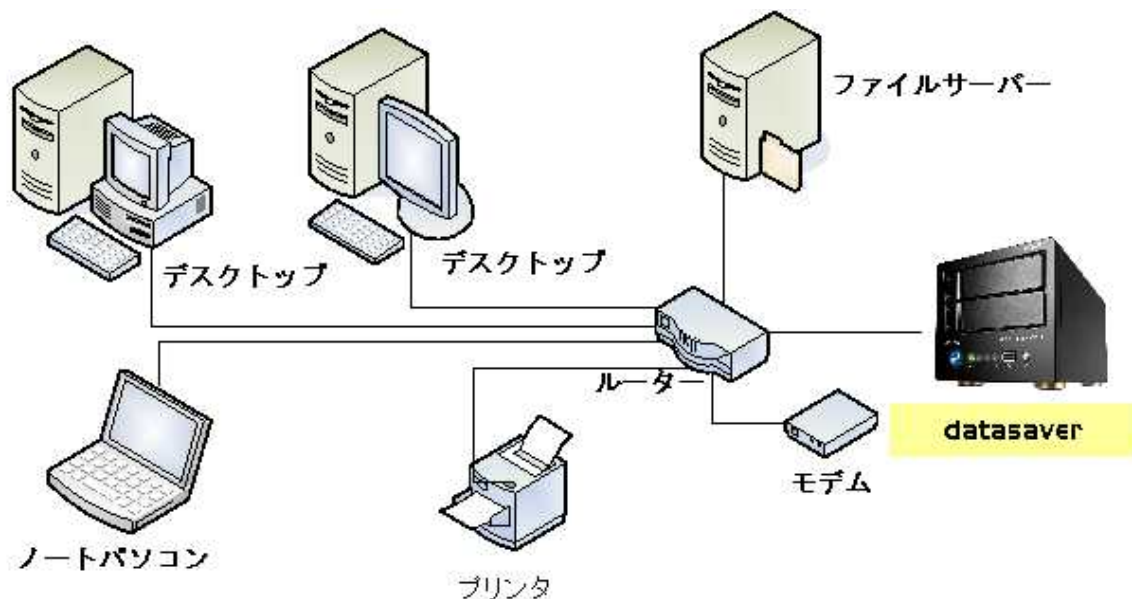
➔ 電源

電源のコンセントは、誤って引っ張って抜けてしまわないよう、回転ストップ式のものをお勧め致します。

ご使用にあたって

datasaver S はネットワーク上に設置して使用します。

例 1) 小-中規模オフィス内のネットワーク環境に datasaver S を設置した場合



バックアップ対象のコンピューターについて

導入前に必ず、既存の PC で datasaver S リカバリメディアが再起動時に起動し、PC が読み込むかを確認してください。詳細は【リカバリガイド】を参照下さい。

その際必ずリカバリステップは途中でキャンセルして下さい。

以下のことを導入前に実施することをお勧めいたします。

■ デフラグ

お客様の PC をデフラグして下さい。お客様の Windows オペレーションシステムのデフラグメントツールよりアクセスが可能です。

〈スタート〉→〈プログラム〉→〈アクセサリ〉→〈システムツール〉→〈ディスクデフラグ〉

このツールでは、お客様がデフラグメントと手順を開始したいドライブを選択して頂くだけです。時間が多少掛かりますが PC が有効に稼動しない際には必ず行う作業と認識して下さい。こちらの作業は、お客様のデータがバックアップされる為にハードディスクが完全な状態であることを保証する為に行います。お客様の PC の性能向上にもなります。

■ HDD のエラーチェック

お客様の HDD にエラーが無いことを確認願います。お客様の HDD プロパティからエラーチェックが可能です。

〈スタート〉→〈マイコンピュータ〉→〈ローカルディスク〉 → 〈右クリックでプロパティ〉

〈ツール〉→〈エラーチェック〉→〈ディスクチェックのオプション〉→ 〈片方ずつ全て行う〉

導入前にご確認ください。

■ OS およびサービスパックは？

Windows XP SP2 以降(32bit)、Vista/7/8/8.1(32/64bit)、Windows Server 2003/2003R2 SP2/2008(32/64bit)、2008R2/2012/2012R2(64bit)に対応しています。Windows Update にて、最新の状態にしておくことを強く推奨いたします。UNIX/Linux, Mac OS, その他の OS には対応しておりません。

■ 搭載メモリの容量は？

1GB 以上搭載していることを推奨しますが、1GB 未満でもご使用いただけます。1GB 未満の場合、初回フルバックアップや、同期中にコンピューターのパフォーマンスが落ちる可能性があります。あらかじめご了承ください。1GB 未満の場合は、可能であれば 1GB 以上に増設していただくことをお勧めします。

■ 搭載 CPU のスペックは？

Pentium4 相当以上の CPU を搭載していることを推奨いたしますが、Pentium4 相当未満でもご使用いただけます。Pentium4 相当未満の場合、初回フルバックアップ中や、同期中に PC のパフォーマンスが落ちる可能性があります。あらかじめご了承ください。

■ 以下のボリューム設定を行っていますか？

本製品は、ダイナミックボリューム・GPT ディスクに対応しておりません。

■ ディスクの圧縮について

お客様のディスク容量が圧縮状態で無いことを確認願います。お客様のドライブ容量やプロパティが正しくクリックされているか確認することが可能です。圧縮が有効で無いことを確認願います。もし有効であれば、お客様には、チェック BOX からチェックマークを外す必要がございます。

■ ディスクの空き容量

お客様の空き容量が少なくとも 1.5GB あることを確認願います。

〈スタート〉→〈マイコンピュータ〉→〈ローカルディスク〉→〈右クリックでプロパティ〉→〈全般〉

■ セキュリティ・暗号化ソフトウェア

お客様環境でセキュリティ、暗号化機能のソフトウェアをこれから利用される場合に、対応可否がご不明な点がございましたら、弊社サポートセンターにご連絡下さい。弊社のメールサポートシステムをご利用頂きメール送信して頂くだけでも結構です。

■ BSI (Base System Image フルバックアップ)

ネットワークトラフィックを回避する為に、ビジネスアワー以外の時間に BSI を稼働させて頂くことをお勧め致します。例えば、ご帰宅時に、お客様の PC で BSI を開始して帰宅して頂ければ、朝には完了しています。または、日中に行う際は、少数台ずつ BSI を順番に開始して頂くことをお勧めします。BSI 中に PC で他の作業をされていても影響はございません。

■ Snapshot scheduling(リカバリポイント作成スケジュール)

ビジネスアワー以外の時間にお客様のスナップショットのスケジューリングして頂くことをお勧めします。お客様の PC のスナップショットを更新して頂く際に最適な方法と確信しております。

■ PC パワー管理機能・スクリーンセーバー

必要のない場合には、お客様の PC パワー管理機能をオフにしてください。スクリーンセーバーも CPU を使うようであればオフにしてください。

■ ワイヤレス LAN

本製品では、ワイヤレス LAN を経由した接続を保証致しかねます。

■ 長期間に渡り連続稼働中のコンピューターはご注意ください

長期間再起動をしていなく、稼働期間が長い場合、トラブルが表面化していなくても HDD に不具合が生じている場合がございますので、導入前に必ず HDD チェックを実行してください。チェックを実行する前に、重要なデータは事前にバックアップしておくことをお勧めします。長期間再起動をしていなく、稼働期間が長い場合、OS がビジー状態になりやすく、不具合が生じる場合がございます。HDD チェックで問題無きことをご確認の上、再起動していただくことをお勧めします。

■ バックアップ対象コンピューターは何台ですか？

推奨台数内であっても、データ容量が大きい場合や、データ更新の頻度が多い場合などは、ネットワークへの負荷が高くなり、パフォーマンスが低下する場合があります。管理者モードの【サーバー管理】画面にて【稼働状況】をご確認いただき、頻繁に負荷が高くなるようであれば、クライアントエージェントの同期間隔を大きくするようにしてください。

■ サポート外事項について

サポート対象のコンピューターは、メーカー製のものです。プレインストールの OS に限ります。後から OS を入れ替えたコンピューターや、自作のコンピューターはサポート外です。また、OS のデュアルブート環境はサポート外です。

製品の特長、機能概要

バックアップ	<ul style="list-style-type: none"> ●エージェントに対しライセンスフリー(最大5台) ●OS、各種設定、アプリケーションソフト、データまで HDD 全体のバックアップ ●GDP(連続差分)バックアップ(10分間隔で差分データを保存し続けます) ●キャッシュレスバックアップ(Microsoft Volume Shadow Copy Service 技術を使用) ●フルバックアップ中でもユーザーログオフが可能。その後の自動シャットダウンも可能 ●対象PCの不良セクタや読み込みエラーを検出 ●簡単操作でフルバックアップの実行が可能 ●よりクリーンで簡易なユーザインターフェース、バックアップ状態も可視化
リカバリ	<ul style="list-style-type: none"> ●手動でリカバリポイントを直ちに作成が可能 ●簡単操作でフルシステムリカバリの実行が可能 ●フルシステムリカバリは全ての HDD または特定の HDD の選択が可能 ●個別ファイル/複数ファイルおよびフォルダーの個別ファイル復旧が可能 ●毎日リカバリポイント作成、最大 10 世代のリカバリポイント保管
セキュリティ管理	<ul style="list-style-type: none"> ●エージェント名とパスワードにより各アカウントを保護 ●高速 AES 暗号化ネットワークによるデータ転送 ●E メールアラートによる状況レポート

ご注意点

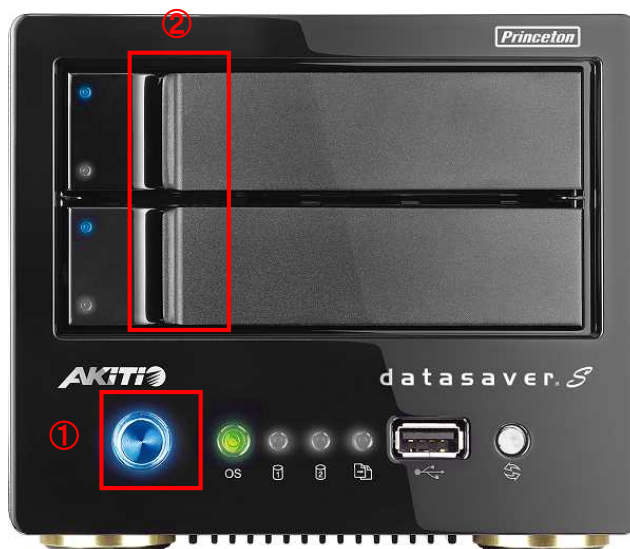
対象 PC	
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ●対象 PC に問題がある場合、正しく動作しない場合がございます。 ●不良セクタのある HDD は、正常にバックアップできない場合がございます。 ●フラグメントが多数ある HDD は、正常にバックアップができない場合がございます。 ●パーティションの論理フォーマットをしていない箇所があるディスクはバックアップできません。 ●USB メディアを起動ディスクとして使用する際には USB ブート可能な BIOS が搭載されている必要がございます。 ●メーカー製リカバリ CD(製品添付またはメーカーより購入)の有無をご確認下さい。 ●対象がサーバーの場合、サーバーを長期間再起動しておらず、且つ長時間稼働している場合、本製品とは関係無く稀に再起動時に HDD や OS に不具合が生じる場合がございます。
回線	
推奨回線環境	1Gbps 以上の有線 LAN
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ●Wireless(無線)LAN での運用の場合、断線等の回線トラブルにより正常にバックアップ、リカバリができない場合がございます。 ●WAN 回線での運用の場合、LAN 環境よりもバックアップ、リストアに時間を要します。また、回線負荷等による回線トラブルにより、正常にバックアップ、リカバリができない場合がございます。 ●本製品と対象 PC 間のハブのカスケードは 2 段階までとして下さい。

第1章 製品インターフェース

本章では各製品の前面および背面のインターフェースについて、および配線方法や付属品について解説しています。

1.1. DS-S-2T

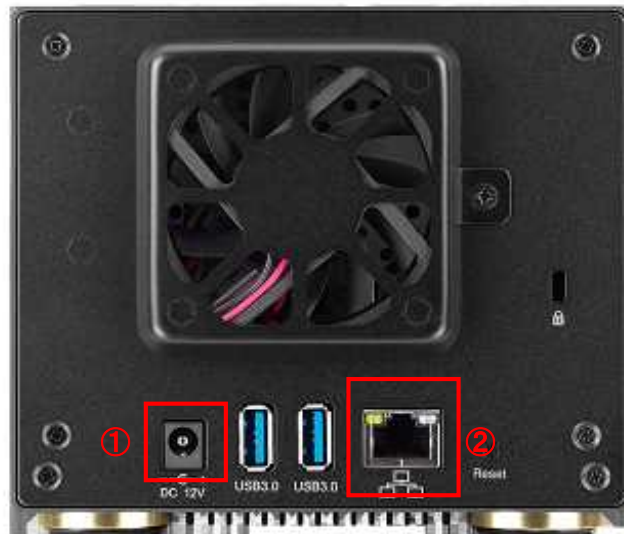
1.1.1. 前面インターフェース



① 電源ボタン パワーLED	本製品の主電源。動作中、4 秒以上の長押しで強制シャットダウン。	
	青色点灯	電源 ON
	消灯	電源 OFF
② HDD 取り外し 取っ手	HDD を取り外すときに、赤枠部を押し取っ手を引き出します。 電源が入った状態で HDD の取り外しを行うとデータ破損及び故障の原因となりますので、必ず電源がオフの状態で行って下さい。	

※上記以外のインターフェース(USB コネクター・LED・スイッチ)は機能しません。

1.1.2. 背面インターフェース



名称	用途等	備考
①AC 電源 入力	AC アダプターを接続	添付の AC アダプターをご使用ください。
②LAN ポー ト	データ通信 管理画面へのアクセス	添付の LAN ケーブル、または市販の LAN ケーブル(カテゴリ 5e 以上) をご使用ください。

※上記以外のインターフェース(USB コネクタ)は使用しません。

第2章 管理者ガイド

本章では、datasaver S 本体の詳細設定や運用・メンテナンス方法など、主に管理者様向けの内容について解説しています。

2.1. datasaver S 本体への接続

2.1.1. 設置環境の確認

必ず設置環境をご確認ください。(P8 「設置環境についての注意」参照)

重要

P8「ご利用の前に」にて最低限の必要事項をご確認下さい。

ご使用前に、datasaver S の電源とネットワークケーブルを正しい場所に接続して下さい。

必ず電圧、電源コネクタ、datasaver S の必要環境条件を満たしているかどうか、ご確認の上ご使用ください。

2.1.2. 電源の入れ方・切り方

datasaver S 各部の名称は P13「第 1 章 製品インターフェース」をご参照ください。

■ datasaver S 電源の入れ方

後面の【電源コード差し込み口】に付属の【AC アダプター】を差し込みコンセントに繋いで下さい。

前面の【電源ボタン】を押して下さい。

※本体に AC アダプターが接続されていない状態から AC アダプターを接続すると、自動的に電源がオンになります。

■ datasaver S 電源の切り方

ウェブブラウザでの管理者画面にて【サーバー管理】中の【シャットダウン】ボタンを押してシャットダウンして下さい。

注意

もし管理画面からのシャットダウンが行われない場合は【電源ボタン】長押し(4 秒～5 秒)して電源を切って下さい。

通常は必ず管理画面よりシャットダウンして下さい。長押しによる強制シャットダウンは故障の原因となります。

2.1.3. 導入時、datasaver S に接続するには

導入時、管理者のコンピューターと datasaver S を接続するには以下の操作が必要です。

datasaver S の IP アドレスは、初期設定で「**192.168.88.88**」と設定されています。

一時的に管理者 PC の IP アドレスを変更し、datasaver S と LAN ケーブルで直接接続させる必要があります。

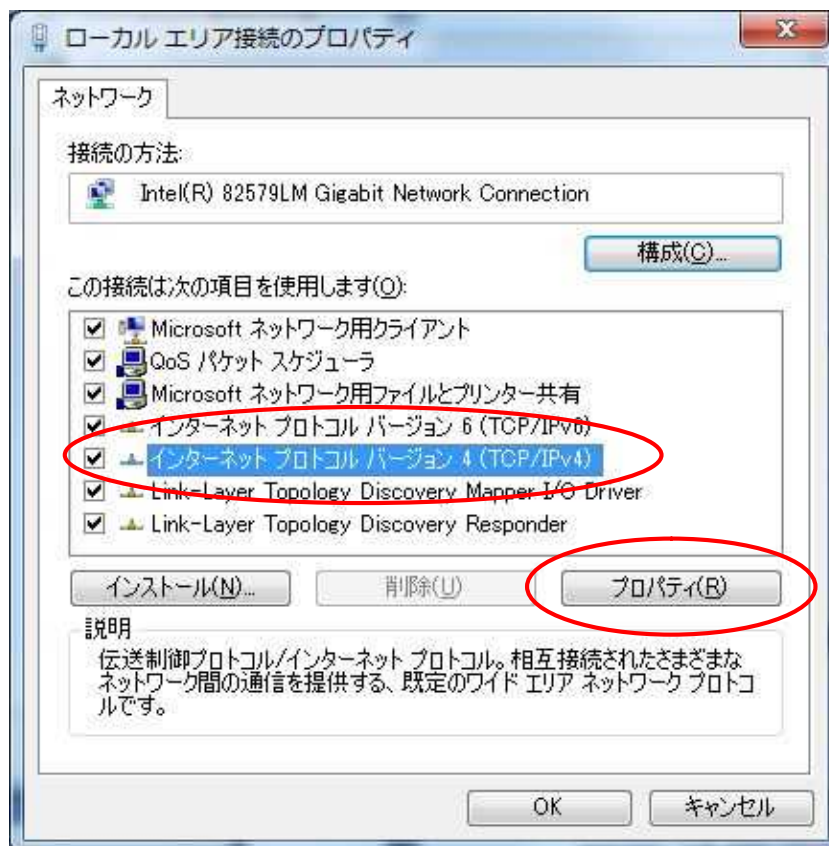
2.1.4. 管理者 PC の IP アドレス変更する

手順1: 【コントロールパネル】を開き、【ネットワーク接続と共有センター】を開きます。

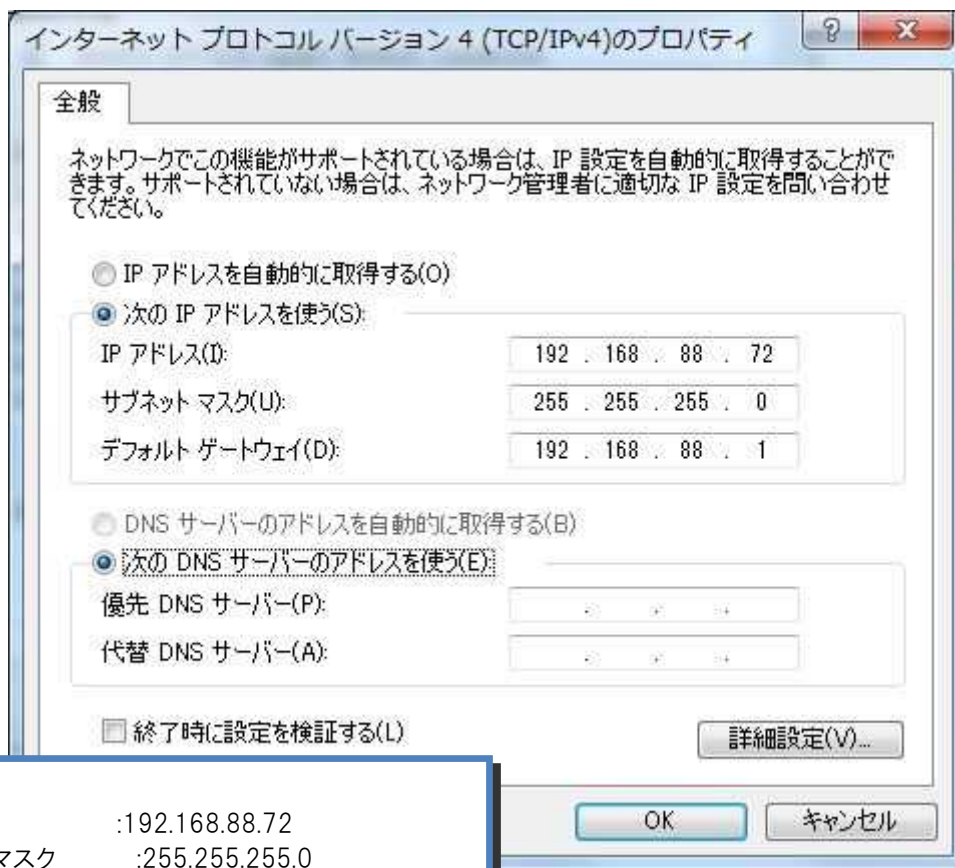


手順2: 【ローカルエリア接続】をクリックして【ローカルエリア接続の状態】を開き、【プロパティ】、【インターネットプロトコル バージョン 4】の順にクリックし、【プロパティ】ボタンをクリックします。





手順3: 【次の IP アドレスを使う】にチェックを入れ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力し(下記表参照)、【OK】ボタンをクリックして下さい。



例えば

IP アドレス :192.168.88.72
サブネットマスク :255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ :192.168.88.1

➡ 変更前に記録しておきましょう

設定してあるネットワークの詳細を忘れないように、メモしておくことをお勧めします。後ほど元の設定に戻します。

2.1.5. ウェブブラウザを開く

ウェブブラウザで次のアドレスを開くと管理者用ログインページが開きます。

<http://192.168.88.88/admin/>

■ datasaver S へログイン

管理者ログイン画面が開いたらパスワードを入力しログインします。
管理者パスワードの初期設定は「admin」です。



注意

すべてのエージェント名とパスワードの取扱に注意してください。

2.2. 管理画面

2.2.1. 概要画面

管理者ログインをしますと、概要画面が表示されます。システム概要・ディスク概要・システム設定を一覧で確認することが出来る画面です。

datasaver S 画面

The screenshot displays the 'datasaver S' management interface in a Firefox browser window. The page title is 'KDI DataSaver S - 管理者' and the URL is '192.168.0.72/?login=admin'. The interface includes a navigation menu with options: エージェント | 概要 | 設定 | ディスク管理 | サーバ管理 | ログアウト. The main content area is divided into two panels. The left panel, titled 'システム概要', provides hardware and software details: Hardware Model: KDI DataSaver S R (KD18S), Firmware Version: 3.6, Firmware Creation Date: 20130722-1450. Below this is a 'ディスク概要' section with a progress bar showing 4.96% usage. Further down, it lists: Agent Count: 1 / 5, Available Disk Capacity: 1.73 TiB, Used Disk Capacity: 92.39 GiB, Disk Capacity: 1.82 TiB, RAID Status: OK, RAID Level: Protected (RAID 1), and RAID Status: ACTIVE. The right panel, titled 'システム設定', shows system configuration: Date and Time: Tue, 19 Nov 2013, 17:28; Time Zone: (GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo; MAC Address: 00:01:D2:14:01:25; IP Address: 192.168.0.72; Subnet Mask: 255.255.255.0; Gateway / Router: 192.168.0.1; Remote Access Status: Not connected; Disk Capacity Alert Warning Setting: 5%; Auto Lock: Full Backup. At the bottom of this panel, a '稼働状況' (Operational Status) section shows four green 'LOW' indicators for time intervals: 0-15m, 15-30m, 30-45m, and 45-60m. The footer contains copyright information: Copyright (c) 2004-2013 Kikuden International Ltd. All rights reserved. KDI ® and KDI DataSaver S ® are registered trademarks of Kikuden International Ltd.

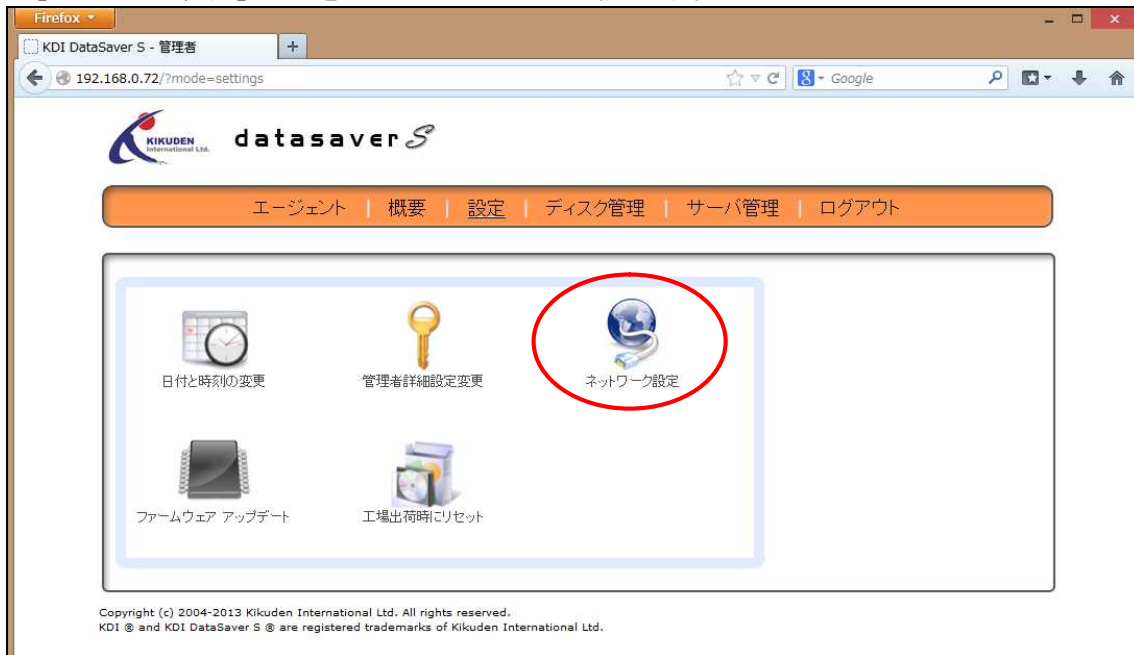
2.2.2. datasaver S ネットワーク設定

お客様のネットワークに合った datasaver S の固定 IP アドレス、サブネットマスクとゲートウェイ/ルーター情報を入力します。もし不明の場合はネットワーク管理者にお問い合わせ下さい。

手順1: 【概要画面】中の上段、【設定】ボタンをクリックし次ページに移ります。



手順2: 【ネットワーク設定】ボタンをクリックして次ページに移ります。



手順3: 【IP アドレス】【サブネットマスク】【ゲートウェイ】を希望の設定に変更して下さい。
DNS サーバーをご使用の場合は【有効】にチェックを入れて頂き、DNS サーバーの IP アドレスを入力して下さい。

エージェント | 概要 | 設定 | ディスク管理 | サーバ管理 | ログアウト

ネットワーク設定ネットワーク設定

MACアドレス: 00:01:D2:14:01:25

IPアドレス: . . .

サブネットマスク: . . .

ゲートウェイ / ルーター: . . .

DNSサーバ: 有効 無効

ネームサーバ 1: . . .

ネームサーバ 2: . . .

手順4: 【保存】ボタンで設定を保存します。ネットワーク情報の確認ページが表示されますので、詳細が正しければ、【はい】をクリックして下さい。

注意 ネットワーク情報が正しくない場合は、datasaver S に接続することができませんので必ずこの情報は忘れないよう注意して下さい

手順5: 管理者 PC の IP アドレスを設定に戻します。
以上の設定が完了しましたら、ウェブブラウザに新しく設定した IP アドレスを入力しログインしてください。
これで datasaver S のネットワーク設定作業は完了です。

2.2.3. datasaver S の日時を変更

手順1: 【設定】中の【日付と時刻の変更】ボタンをクリックし次ページへ移ります。



手順2: 【タイム】現在の時刻を 24H で入力して下さい。(例: 13:46=午後 1 時 46 分)
【日付】日・月・年 の順番で入力して下さい。
【タイムゾーン】を設定します。日本の場合、(GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo です。
上記入力が終了しましたら【保存】ボタンをクリックし、設定を保存致します。



2.2.4. datasaver S の管理者詳細設定変更

手順1: 【設定】中の【管理者詳細設定変更】ボタンをクリックし次ページへ移ります。



手順2: 管理者ログインパスワードの変更や、管理者 E メールアラートの送信先アドレス設定を行います。

管理者ログインパスワード
管理者ログインパスワードのデフォルトは「admin」です。導入時にセキュリティ強化のため、パスワードを変更していただくことを推奨します。パスワードは大切に保管してください。

管理者用 E メールアラート
管理者用 E メールアラートを使用するには、E メールアドレス、SMTP サーバー名、SMTP オート、SMTP ユーザーネーム、SMTP パスワードを設定する必要があります。

2.2.5. datasaver S のファームウェア アップデート

手順1: 【設定】中の【ファームウェア アップデート】ボタンをクリックし次ページへ移ります



手順2: 新しいバージョンのファームウェアがリリースされましたら、弊社ウェブサイトより、ダウンロードをして頂いた後、【ファームウェア アップデート】から、新しいバージョンのインストールが出来ます。

手順3: ダウンロード後、上記の【参照】ボタンをクリック頂き、ダウンロードしたファイルを選択頂き、【ファームウェア アップデート】ボタンをクリックして下さい。その後【ディスク管理】ボタン中の【再起動】ボタンにて必ず再起動を行ってください。再起動致しないとアップデートが完了致しませんのでご注意ください。



2.2.6. datasaver S の工場出荷時にリセット

手順1: 【設定】中の【工場出荷時にリセット】ボタンをクリックし次ページへ移ります。



手順2: 【はい】ボタンをクリックしますと工場出荷時の状態へ戻ります。



datasaver S 初期設定(デフォルト)

IP アドレス: 192.168.88.88

管理者ログインパスワード: admin

2.2.7. datasaver S のディスク管理

datasaver S は、HDD の状況を知る為に、下記のような画面にてディスク状況を確認することが出来ます。

【初期化】ボタンは、全てのデータを削除して、初期化を実行します。すべてのリカバリポイントやエージェント及びパスワードは削除されますのでご注意ください。

【検査】ボタンは、エラーと修正が無いが、ハードディスクのスキャンを実行します。

datasaver S シリーズ画面

The screenshot displays the 'datasaver S' web interface. At the top, there is a navigation bar with the following menu items: エージェント | 概要 | 設定 | **ディスク管理** | サーバ管理 | ログアウト. The 'ディスク管理' (Disk Management) menu item is circled in red. Below the navigation bar, the main content area is divided into two panels. The left panel, titled 'ディスク概要' (Disk Overview), shows a progress bar at 4.96% and lists the following information: 利用可能なディスク容量: 1.73 TiB, 使用済ディスク容量: 92.37 GiB, ディスク容量: 1.82 TiB, RAID稼働状況: OK, RAIDレベル: Protected (RAID 1), RAID状態: ACTIVE, 稼働ディスク: 2, 故障したディスク: 0, ディスク状態: 1 ACTIVE, 2 ACTIVE. The right panel, titled 'ディスク構成' (Disk Configuration), contains two buttons: '初期化' (Initialize) and '検査' (Check). The '初期化' button is accompanied by the text: '全てのデータを削除し、初期化してください。警告: すべてのリカバリポイント、エージェントとパスワードは消去されます。' (Delete all data and initialize. Warning: All recovery points, agents, and passwords will be deleted). The '検査' button is accompanied by the text: 'エラーと修正が無いかすべてのデータとディスクを確認します。' (Check for errors and corrections on all data and disks).

Copyright (c) 2004-2013 Kikuden International Ltd. All rights reserved.
KDI ® and KDI DataSaver S ® are registered trademarks of Kikuden International Ltd.

【RAID 状態】や【ディスク状態】が【ACTIVE】になっている状態が正常です。HDD に異常が発生すると、【RAID 状態】が【DEGRADED】、【ディスク状態】が【REMOVED】や【FAILED】になります。

■ ハードディスクが故障した場合の手順

datasaver S ハードウェアはホットスワップ対応ですので、故障したハードディスクは電源を切らずに脱着することが出来ます。

【datasaver S シリーズの場合】

故障したハードディスクを交換すると、自動で RAID は再構築を開始します。RAID 構築中は下記のような画面になり、RAID 稼働状況:DEGRADED で RAID 状態:REBUILDING *%COMPLETE になります。100%になりますと、RAID 稼働状況:OK で RAID 状態:ACTIVE になり、正常な状態を示します。

The screenshot displays the management interface for a KIKUDEN datasaver S. At the top, there is a navigation bar with links for 'エージェント' (Agents), '概要' (Overview), '設定' (Settings), 'ディスク管理' (Disk Management), 'サーバ管理' (Server Management), and 'ログアウト' (Logout). The main content area is divided into two panels. The left panel, titled 'システム概要' (System Overview), shows hardware model 'KDI DataSaver S R (KD18S)', firmware version '3.6', and creation date '20130722-1450'. Below this is a 'ディスク概要' (Disk Overview) section with a progress bar at 1.83%. Further down, it lists agent counts, disk capacities (available: 1.79 TiB, used: 34.02 GiB, total: 1.82 TiB), RAID status (DEGRADED), RAID level (Protected (RAID 1)), and RAID progress (REBUILDING - 0% COMPLETE). The right panel, titled 'システム設定' (System Settings), displays system time (Tue, 19 Nov 2013, 19:58), time zone (GMT+09:00 Osaka, Sapporo, Tokyo), MAC and IP addresses, subnet mask, gateway, and remote access status (disconnected). It also shows disk capacity alert settings (5%) and auto-lock settings (full backup). At the bottom right, a '稼働状況' (Operational Status) section shows a table with four 'LOW' indicators.

稼働状況:			
0-15m	15-30m	30-45m	45-60m
LOW	LOW	LOW	LOW

2.2.8. datasaver S の再起動・シャットダウン

【サーバー管理】ボタンをクリック致しますと、上記画面が表示されます。【再起動】・【シャットダウン】を行う画面です。

【システムログ閲覧】ボタンでシステムのログを閲覧することが出来ます。



注意

datasaver S の電源を切る際は、必ずサーバー管理画面のシャットダウンボタンにて行ってください。ハードウェア側で電源を強制終了いたしますと故障の原因となります。

2.3. エージェントの管理と作成

2.3.1. エージェント管理

datasaver S のエージェントを管理するには、上段にあるメニューの【エージェント】ボタンをクリックして下さい。このページから、新しいエージェントの作成、パスワードの編集、リカバリポイントの管理、エージェント情報の編集や削除することが出来ます。導入時、まだエージェントを作成していない場合に【エージェント】ボタンをクリックすると下記画面が表示されます。

The screenshot shows the 'datasaver S' web interface. At the top, there is a navigation bar with the following items: エージェント | 概要 | 設定 | ディスク管理 | サーバ管理 | ログアウト. Below this, the main content area is titled '新しいエージェントの作成' (New Agent Creation). It contains three input fields: 'エージェント名:' (Agent Name), '新しいパスワード:' (New Password), and 'パスワード再入力:' (Repeat Password). A '作成' (Create) button is located below these fields. To the right of the form, there is a note: 'エージェント名は15文字以内で英数字とハイフンとアンダーバーのみを使用して下さい。' (Agent name must be within 15 characters and use only alphanumeric characters, hyphens, and underscores).

エージェントを作成してある場合は、下記画面が表示されます。

The screenshot shows the 'datasaver S' web interface displaying the details of an existing agent. The navigation bar is the same as in the previous screenshot. The main content area is titled '新しいエージェントの作成' (New Agent Creation) and shows the following information for an agent named 'pc1':

- エージェント名: **pc1**
- 連続保護: 完了 (19 Nov 2013 20:34)
- 最終同期: 稼働 (20 Nov 2013 13:44)
- サイズ: **12.31 GiB**
- リカバリポイント: **1** (リカバリポイントの最大数: 10)
- 現在のスケジュール: スケジュールなし

There are two buttons below the agent name: 'エージェント設定' (Agent Settings) and 'リカバリポイントの管理' (Manage Recovery Points). A green checkmark icon is visible on the right side of the details area.

2.3.2. 新しいエージェントの作成

重要 エージェント名とパスワードは重要ですので大切に保管してください。

注意 エージェント名とパスワードは、15 文字以内の英数字、およびハイフン・アンダーバー以外は使用できません。

■ 導入時の場合

The screenshot shows the 'New Agent Creation' page in the 'datasaver S' management interface. The page title is '新しいエージェントの作成'. It features three input fields: 'エージェント名:' (Agent Name), '新しいパスワード:' (New Password), and 'パスワード再入力:' (Password Re-entry). A '作成' (Create) button is located below the fields. To the right of the form, there is a note: 'エージェント名は15文字以内で英数字とハイフンとアンダーバーのみを使用して下さい。' (Agent name must be within 15 characters, using only alphanumeric characters, hyphens, and underscores). The top navigation bar includes links for 'エージェント' (Agents), '概要' (Overview), '設定' (Settings), 'ディスク管理' (Disk Management), 'サーバ管理' (Server Management), and 'ログアウト' (Logout).

- ① エージェント名に対象 PC が分かるような名前を入力して下さい。(コンピューター名である必要はありません)
- ② 【新しいパスワード】と【パスワード再入力】に同じパスワードを入力します。
- ③ 【作成】ボタンをクリックして下さい。下記次のページ【エージェント設定の編集】画面に移ります。

※エージェント名とパスワードは、15 文字以内で英数字とハイフンとアンダーバーのみを使用して下さい。

※作成可能なエージェント数は最大 5 台です。

【エージェント設定の編集】

- ④ リカバリポイントの最大数は 10 に設定されており変更出来ません。
- ⑤ リカバリポイントを作成するスケジュールを選択し設定します。PC 稼働の少ない夜間の時間を推奨します。
※本製品では【毎日】のみスケジュール設定可能です。
- ⑥ 【保存】ボタンをクリックし、エージェントの作成は終了です。

【エージェントパスワード編集】

パスワードを再設定したい場合はこちらで編集出来ます。

【エージェント消去】

エージェントを消去したい場合はこちらで実行出来ます。エージェントのデータは全て削除されますので、注意して操作下さい。



警告

エージェントアカウントを削除される場合は、必ずエージェント側でバックアップを停止してから削除を行ってください。
フルバックアップ(Base System Image)または連続差分バックアップ(Cont.Incr.Bckp)がアクティブの状態の時に削除を行いますと datasaver S の故障の原因となります。

【プライバシー保護の有効】

このボタンを実行しますと、管理者ログイン画面ではパスワードを編集することが出来なくなります。エージェントログイン画面でのみパスワードを編集することが可能になります。例えば経営者のデータを管理者にも見られたい場合はこの設定をすればプライバシーの保護が行えます。



注意

クライアントのプライバシー保護強化が実施されているにもかかわらず、パスワードを忘れてしまった場合、管理者の出来ることは、そのエージェントアカウントとリカバリポイントを一度削除してから再度新しくエージェントアカウントを作成することになります。

■ 追加で新しいエージェントの作成の場合



上段【エージェント】ボタンをクリックしますと、上記のような画面が表示されます。右上に【新しいエージェントの作成】ボタンをクリックしますと、エージェントを追加出来ます。以後は前記の設定を繰り返して下さい。

2.3.3. エージェントのリカバリポイントの管理

エージェントのリカバリポイントの管理は、【エージェント】内の【リカバリポイントの管理】ボタンをクリックすると、特定したエージェントのリカバリポイントが閲覧できます。管理者ログイン画面ではそのエージェントのリカバリポイント内の詳細は見る事が出来ません。



このページから管理者は、エージェントが保存しているリカバリポイントの【ロック】と【ロック解除】と【消去】の管理ができます。デフォルト設定ではフルバックアップを行った際のリカバリポイントは自動でロックされます。雑型として、リカバリポイントを残しておきたい場合は、該当するリカバリポイントの【ロック】ボタンをクリックすると、いつまでも消えないで保存出来る機能を有効にすることが出来ます。ただし、最大リカバリポイント数に注意してロック機能を使用して下さい。最大数全てロックを掛けますと次の新しいリカバリポイントは作成されません。

ロックされているリカバリポイントは、インテリジェンスディスクスペース管理機能 (IDSM) やユーザーによって削除されることはありません。この機能は、会社にとって大事なデータをユーザーに削除させないようにしております。

もしユーザーが datasaver S 内でリカバリポイント (スナップショット) が作成される間に PC 側でファイルなどを開けていたり、変更したりした場合は、それらの変更されたデータは保存されません。ファイルがうまくバックアップ出来ていない可能性があります。これらファイルやデータはリカバリポイントとして組み込まれますが、データが完全にバックアップされたかどうかは保証できません。

ファイルの書き込み未完成またはデータが書き込み漏れによりリカバリポイントに作成されておらず、システムエラーや電源エラーと同じように「データ破損」となり、使用できないかもしれません。

よってなるべくエージェントを作成する際、リカバリポイント作成スケジュールは、夜間など作業していない時間帯を選び設定することを推奨します。

最新のリカバリポイントを手動で作成



連続差分バックアップが稼働している状態に限り、もし最後のリカバリポイントの日付が古い場合は、【スナップショット作成】ボタンをクリックすることで、コンピューターの変更等々を最新の状態でリカバリポイントを手動で作成することが可能です。
また、連続差分バックアップのキャンセルを実行した場合に、その時点で、自動でリカバリポイントを作成します。

12 Oct 2010 05:50 PM	スナップショット作成
12 Oct 2010 04:30 PM (6.84 GiB)	システムロックされています。
08 Oct 2010 12:00 AM (40.47 MiB)	ロック 消去
07 Oct 2010 05:39 PM (6.61 GiB)	ロック 消去



リカバリポイント (スナップショット) とは

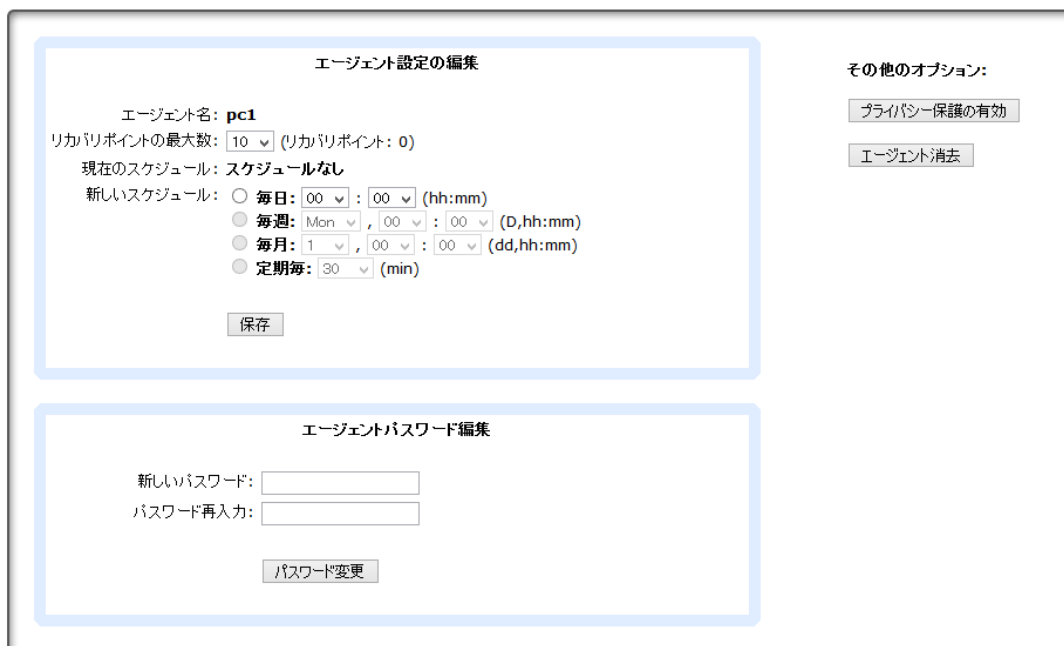
datasaver S でベースイメージと PC から送られてきた差分をひとつの世代イメージとして自動作成する機能です。

2.3.4. エージェント設定の編集

エージェントを作成した後、【エージェント設定】ボタンで設定内容を編集することができます。

ここでは、連続差分バックアップ中にリカバリポイント(スナップショット)を作成するスケジュール設定や、エージェントパスワードの設定ができます。

スケジュール設定をしていると、PC をシャットダウンしている場合や、ネットワークに繋がっていない場合等でも datasaver S 内に自動でスケジュール時間にリカバリポイント(スナップショット)を取り続けます。リカバリポイントリミット数を超えますと、古いリカバリポイントを削除し、新しいリカバリポイントを作成します。もし削除されたくないリカバリポイントがありましたら、【リカバリポイントの管理】画面より該当するリカバリポイントをロックして下さい。



注意

datasaver S の動作を向上させるために、クライアントのスナップショット開始スケジュールの時間は分散させてください。また夜間など作業時間外の時間設定にしてください。

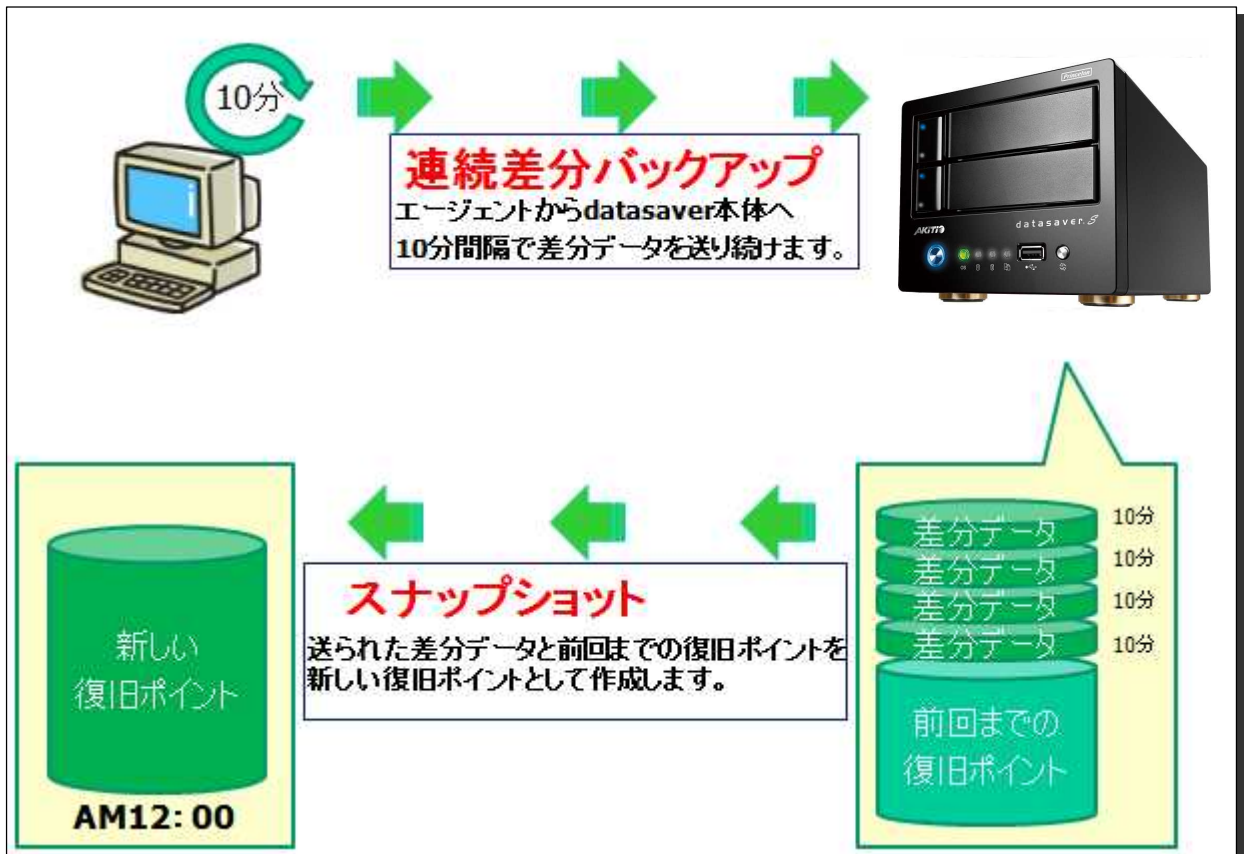
【リカバリポイント数に関して】

設定値は 10 ですが、例えば毎日 1 回のリカバリポイントを作成するスケジュールであれば 10 日分のリカバリポイントが保持されます。

【スケジュールに関して】

- 毎日: **基本は毎日 1 回を推奨しております。** 通常ご使用されている PC に最適です。
- 毎週: 本製品では選択できません。
- 毎月: 本製品では選択できません。
- 毎分: 本製品では選択できません。

【連続差分とスナップショットのイメージ図】




2.4. 管理者確認項目(より確実に運用して頂くために)

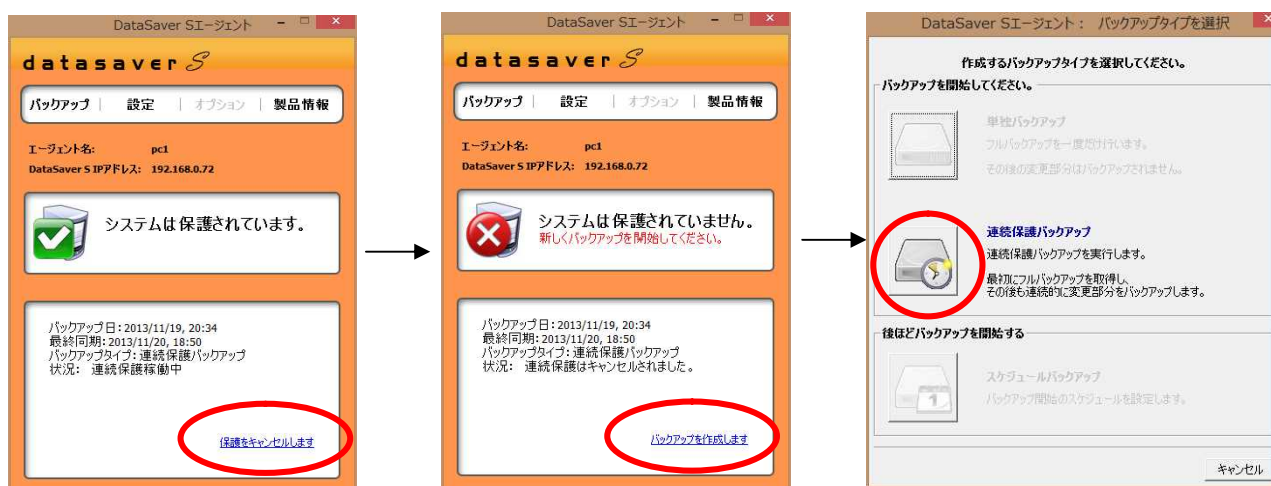
管理者は下記項目を定期的に確認して頂くことを強くお勧め致します。この項目は確実に運用して頂く為に定期的に行って頂くためのものです。

2.4.1. 確実な復旧データを保持する為のメンテナンス

- ★ 定期的に連続差分バックアップを一旦停止し、再度フルバックアップの開始をして頂くことをお勧めします。弊社推奨 実行間隔は、1 か月に 1 回程度です。

エージェント PC のタクストレイからアイコン  をクリックし、エージェントを開きます。
【保護をキャンセルします】をクリックしますと、連続差分バックアップが停止します。

キャンセルされたら、再度フルバックアップの開始のため【バックアップを作成します】をクリックし、その次の画面にて【連続保護バックアップ】を選択しフルバックアップを開始して下さい。



- ★ 定期的に datasaver S の HDD の動作状態と、保護対象(サーバやエージェント PC)との同期が止まっておらず、最新の時間にて稼働しているかの確認を行ってください。弊社推奨 実行間隔は、1 週間に 1 回程度です。

定期的に外観のほこり等をふき取ってください。

通風口の詰りによる冷却の妨げを防止する為のメンテナンスです。

十分な内部冷却が行われない場合、datasaver S は正常に機能できなくなる可能性があります。

2.4.2. クライアント状況確認方法

下記ウェブブラウザのアドレスへ datasaver S の IP アドレスを入力頂き、下記画面へログインし、【管理者ログイン】ボタンを押して【パスワード】(初期は admin)を入力してログインして下さい。



次に上段の項目中の【エージェント】を選択し、各エージェントの最終同期時間が、ほぼ最近のものかどうかを下記【連続保護】部分と【最終同期】部分を参照し確認してください。【連続保護】部分が【稼働していません】の場合は、まだフルバックアップが取れていないことを示します。【最終同期】部分が【稼働していません】の場合は、連続差分バックアップが取れていないことを示します。



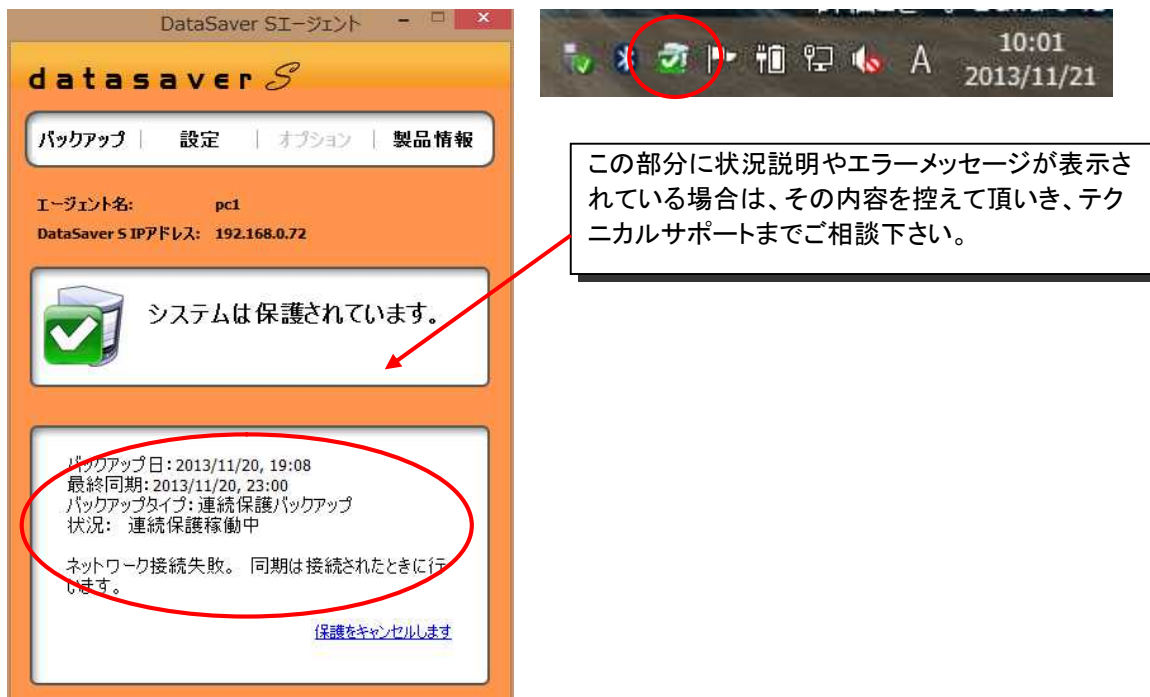
2.4.3. リカバリポイントの確認方法

前記【エージェント】中の【リカバリポイントの管理】ボタンをクリックすると、リカバリポイントの一覧が表示されます。リカバリポイントがスケジュール通りにとられているか確認下さい。また定期的に個別ファイル復旧が出来るかどうかも確認下さい。(第 4 章 リカバリガイド参照)



2.4.4. エージェント画面確認方法

前記の【エージェント】【リカバリポイントの管理】中で、PC が起動しているのに連続保護・最終同期の日時が古い場合は、該当する PC のタスクトレイから datasaver S エージェントを起動し、エラーメッセージが表示されていないか確認して下さい。エラーメッセージが表示されている場合は、ネットワーク環境が正しく動作している事をご確認の上、弊社テクニカルサポートまでご連絡下さい。



2.4.5. ディスク状態の確認方法

【ディスク管理】にてディスクの確認を定期的に行って頂くことをお勧めします。


■ ディスク容量の残量について

ディスク残量が残りわずかの場合、各エージェントのリカバリポイントを消去するか、ロックされているリカバリポイントを解除することで容量の確保が可能です。

The screenshot displays the 'Disk Management' section of a management console. At the top, there is a navigation bar with tabs: エージェント | 概要 | 設定 | ディスク管理 | サーバ管理 | ログアウト. The main content is divided into two panels. The left panel, titled 'システム概要' (System Overview), shows hardware details: KDI DataSaver S R (KD18S), firmware version 3.6, and creation date 20130722-1450. Below this is a 'ディスク概要' (Disk Overview) section with a progress bar indicating 4.96% usage. Further down, it lists agent counts (1/5), available disk capacity (1.73 TiB), used capacity (92.39 GiB), total disk capacity (1.82 TiB), RAID status (OK), RAID level (Protected (RAID 1)), and RAID status (ACTIVE). The right panel, titled 'システム設定' (System Settings), shows system information: date/time (Tue, 19 Nov 2013, 17:28), time zone (GMT+09:00 Osaka, Sapporo, Tokyo), MAC address (00:01:D2:14:01:25), IP address (192.168.0.72), subnet mask (255.255.255.0), gateway/router (192.168.0.1), remote access status (not connected), disk capacity alert setting (5%), and auto-lock (full backup). At the bottom of this panel, a '稼働状況' (Operational Status) section shows four green 'LOW' indicators for time intervals: 0-15m, 15-30m, 30-45m, and 45-60m.

※E メールアラートを設定している場合は、残量が5%以下になるとEメール通知されます。

リカバリポイントの自動ロック機能

 デフォルトの設定としてフルバックアップをすると必ずそのリカバリポイントは自動的にロックが掛かります。ロックする必要がなければ、エージェントのリカバリポイントの管理画面にてロックを解除して下さい。

■ RAID/ディスクの状態のチェック

RAID やディスクの状態を定期的にチェックしていただくことをお勧めします。
E メールアラートを設定している場合は、RAID やディスクに異常が発生したときに E メール通知されます。
また、【検査】ボタンをクリックするとディスクスキャンを行います。定期的に行って頂くことを推奨します。

The screenshot displays a management interface with a navigation bar at the top containing: エージェント | 概要 | 設定 | ディスク管理 | サーバ管理 | ログアウト. The main content is divided into two panels. The left panel, titled 'ディスク概要' (Disk Summary), features a progress bar at 1.83% and a list of disk metrics: 利用可能なディスク容量: 1.79 TiB, 使用済ディスク容量: 34.02 GiB, ディスク容量: 1.82 TiB, RAID稼働状況: DEGRADED, RAIDレベル: Protected (RAID 1), RAID状態: DEGRADED, 稼働ディスク: 1, 故障したディスク: 1, and ディスク状態: 1 ACTIVE, 2 FAILED. The right panel, titled 'ディスク構成' (Disk Configuration), contains two buttons: '初期化' (Initialize) with a warning that all data will be deleted and the agent password will be removed, and '検査' (Check) which performs an error and repair check on all data and disks.

RAID/ディスクの状態が ACTIVE が正常です。その他の場合は、破損している場合がございますので、ディスクの交換が必要になる場合がございます。1つのディスクが不具合の場合は、そのディスクを交換して頂ければ元に戻りますが、2つ以上不具合がある場合は交換してもデータは残りませんので十分にご注意下さい。ご不明の場合は弊社サポート宛てまでお問い合わせ下さい。

2.4.6. 確実に datasaver S を安定動作させる為のメンテナンス

- ★ 定期的に datasaver S の再起動を行って下さい。弊社推奨実行間隔は、1 か月に 1 回程度です。

管理者メニューより、【サーバー管理】ボタンをクリックし、【再起動】ボタンをクリックして下さい。



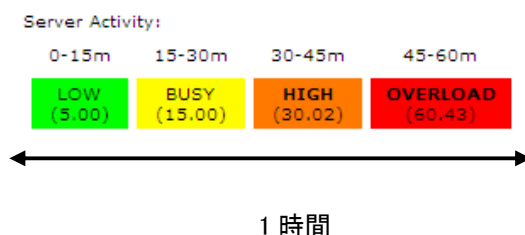
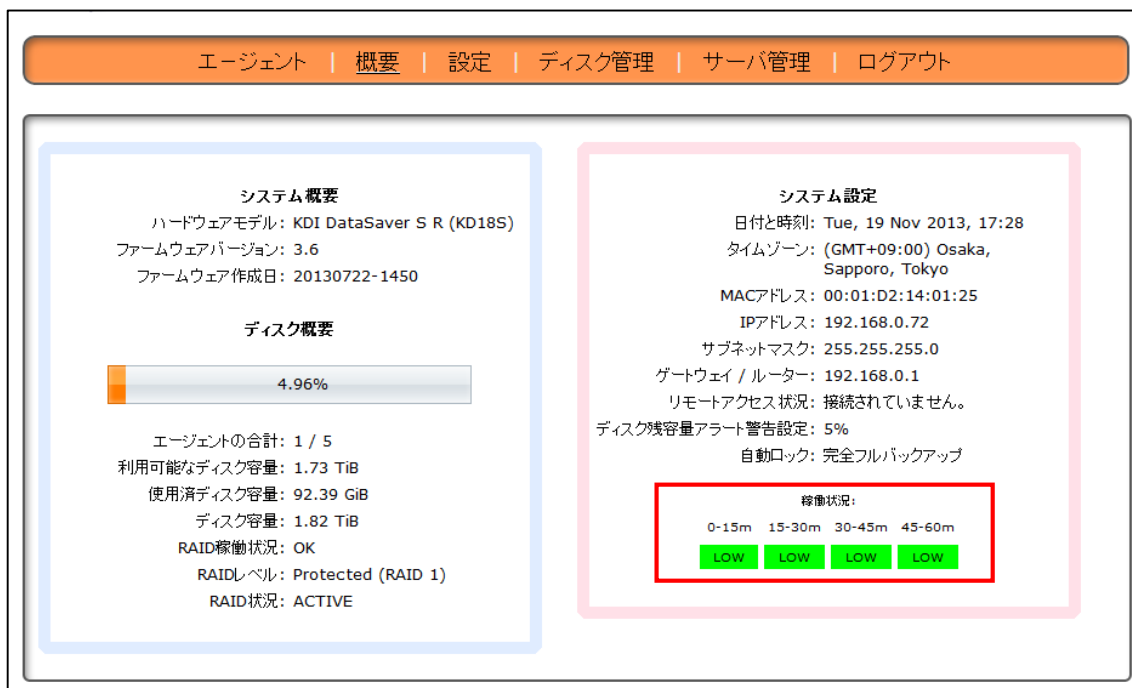
- ★ 定期的に外観の ほこり等を掃除して下さい。開口部や本体底面にほこり等が溜まると十分な内部冷却が行われなくなる為、datasaver S は正常に機能しなくなる可能性があります。



万一、PC の HDD が物理的に故障している事が明白な場合には、すぐさまには datasaver S による完全復旧を行わず、弊社サポート宛までご連絡下さい。壊れている HDD に対して復旧の為の上書きを行いますと、万一必要になった場合に、壊れている HDD からのデータ・サルベージが困難になります。故障したオリジナル HDD は必ず別途保管してください。

2.4.7. サーバ本体の負荷状況確認

過去 1 時間を 15 分間隔で、どの程度 datasaver S サーバ本体に負荷がかかっているか状況を確認できます。datasaver S 本体の負荷状態が高くなると、【稼働状況】が下記のような「BUSY」のステータスになります。datasaver S 本体の負荷状態を確認し、稼働状況に応じて適切な対処方法を実施してください。



ステータス表

表示	状況	対処方法
OVERLOAD	オーバーロード	数台のバックアップを停止してください。 システム障害やデータ破損に繋がる恐れがあります。
HIGH	負荷 高	ネットワークや HDD に負荷がかからないよう、数台のバックアップ停止を検討してください。
BUSY	負荷 中	使用を続けて下さい。 ※この状態が続く場合は、引き続き負荷状況の監視をして下さい。
LOW	負荷 低	使用を続けてください。

2.5. ログファイルと E メールアラート

2.5.1. ログファイルの保存

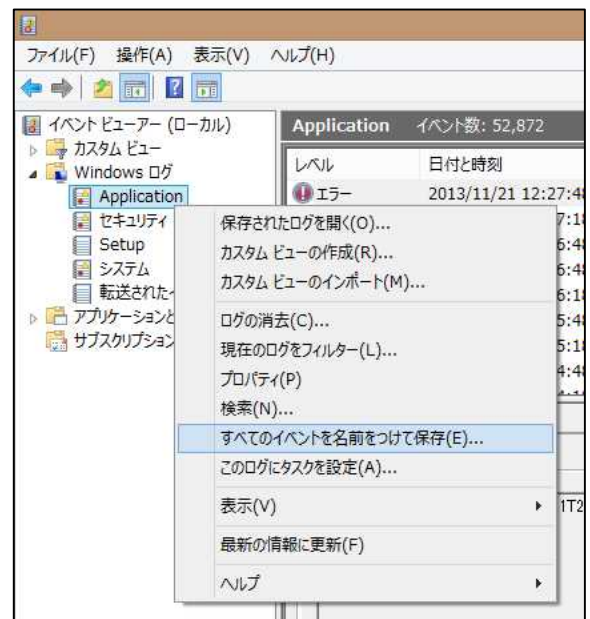
弊社テクニカルサポートにご連絡頂いた際に、【エージェント解析ログ】のご提供を依頼する場合があります。エージェント解析ログは、PC のタスクトレイにある datasaver S エージェントアイコンを右クリックして【エージェント解析ログ ダウンロード】を選択します。その後保存先をデスクトップ等分かりやすい場所を選択し保存して下さい。



2.5.2. Windows イベントログの保存

上記エージェント解析ログと併せて、Windows イベントログのご提供を依頼する場合があります。Windows イベントログは下記方法で保存します。※Windows のバージョンによって操作方法が異なる場合があります。

- ① イベントビューアーを開きます。
- ② イベントビューアーの【アプリケーション】を右クリックします。
- ③ 【すべてのイベントを名前をつけて保存】を選択してください。
- ④ 【システム】も同様の手順でログを保存して下さい。



2.5.3. E メールアラート設定と種類

datasaver S は本体または接続先 PC との接続状態に何か問題が発生した場合に、管理者に E メール通知を行う設定が可能です。

【管理者Eメールアラート設定】

- ①「はい」にチェックを入れます
- ②【Eメールアドレス】【SMTPサーバー】【SMTPポート】【SMTPユーザーネーム】【SMTPパスワード】をそれぞれ入力し【保存】ボタンをクリックします。
- ③【テスト配信】ボタンをクリックするとテストメールが送信されます。

※Eメールアラートの設定を行うにはインターネットに接続されている環境が必要となります。

アラート内容

種類	以下内容の際に配信されます。	対応・対処法
レポート	週間レポート	現状を一読ください。エラーが無いか確認して下さい。また最終同期を確認して24時間以上経過している場合は、該当エージェント、ネットワーク接続確認して下さい。
レポート	datasaver S 本体サーバー始動・再起動	現状を一読ください。
レポート	datasaver S シャットダウン	現状を一読ください。
レポート	電源障害が復旧	電圧障害が確実に復旧したかご確認ください。
注意警告	datasaver S 本体サーバーオーバーロード	負荷が高い状態です。数台のバックアップを停止してください。システム障害やデータ破損に繋がる恐れがあります。
注意警告	フルバックアップ連続保護バックアップが停止	任意の停止でない場合は該当エージェントの状況を確認ください。
注意警告	ディスクの初期化	RAID 構成に変更があったことを示します。現状を一読ください。
注意警告	ディスクの不具合検出	どのディスクが不具合かメモをし、サポートまでご連絡ください。
注意警告	ディスク残容量アラート警告設定値に到達	HDD 容量が不足しています。容量を空けて下さい。具体的にはエージェントやリカバリポイントの削除を実行します。

第 2 章 管理者ガイド

エラー	スナップショットが作成されない	該当エージェントの状況を確認ください。 再度フルバックアップを取ってください。
エラー	リカバリポイント内にエラーを検出	該当エージェントの状況を確認ください。バックアップ対象 PC に不具合がないか 確認し、再度フルバックアップを取ってください。



注意

Eメールアラートを受け取るためには、インターネットに接続出来る環境で、SMTP サーバーと E メールアドレスを、【設定】中の【ネットワーク設定】中で設定する必要があります。

第3章 ユーザー・ガイド

本章では、バックアップの対象となるコンピューター側の設定や運用方法について解説しています。



datasaver S エージェントとは？

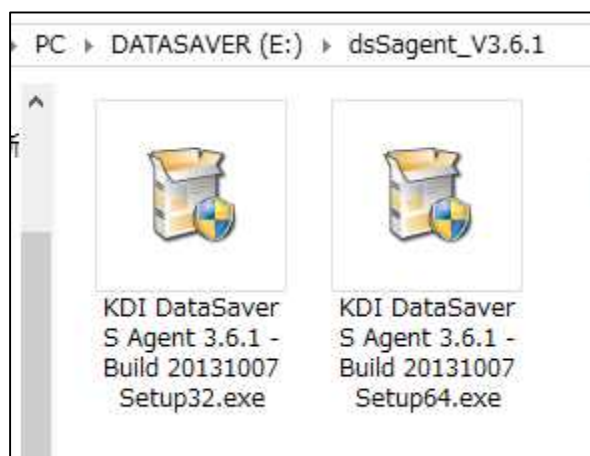
バックアップ対象 PC 側のことです。

3.1. PC ソフトのインストール・アンインストール

3.1.1. datasaver S エージェントのインストール

手順1: datasaver S 付属の USB メディアを PC の USB ポートに挿して下さい。

手順2: USB メディア内に保存されている下記エージェントインストーラーを実行します。
KDI Datasaver S Agent 3.6.1 - Build 20131007 Setup32.exe (32bit Windows 用)
KDI Datasaver S Agent 3.6.1 - Build 20131007 Setup64.exe (64bit Windows 用)
※ファイル名、バージョンはリリース時のものです。これらは予告なく変更になる場合があります。



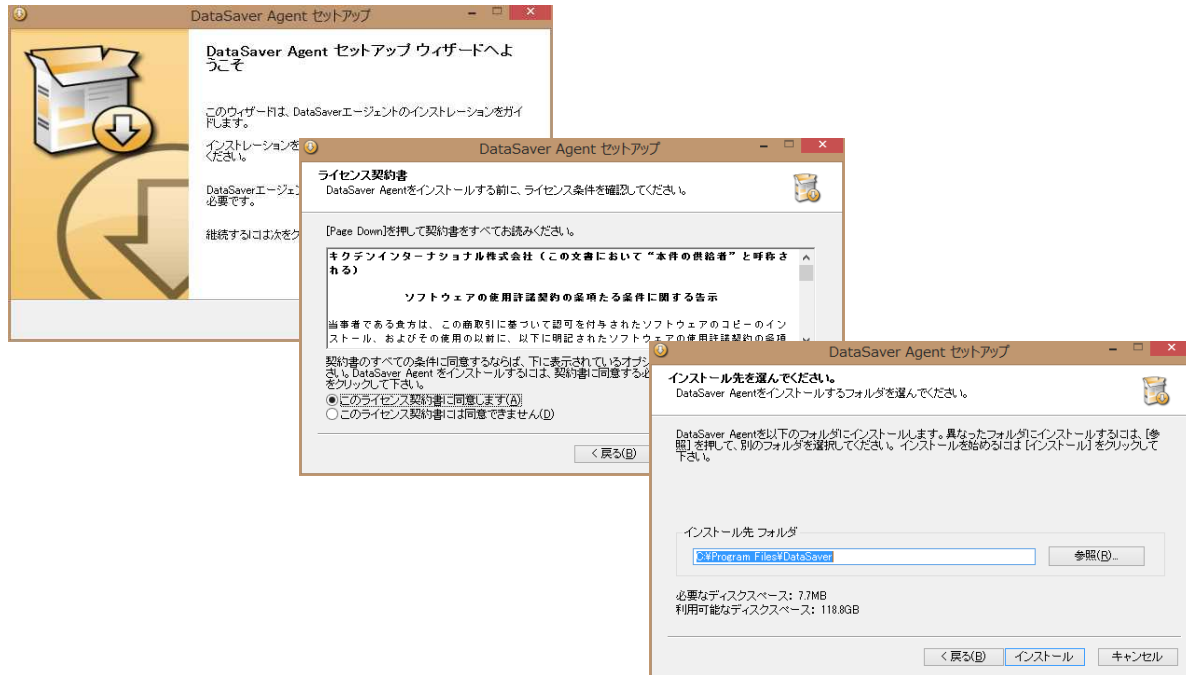
手順3: インストーラーが起動します。【Japanese】を選択して【OK】をクリックします。



注意

datasaver S エージェントプログラムファイルはインストールに約 15MB のスペースが必要です。

手順4: 画面の指示に従って、インストールプロセスを続けてください。



手順5: datasaver S エージェントインストーラーはインストール過程を完了するために再起動が必要です。



エージェントインストールに際しての注意

- もし Microsoft Anti-spyware または Spybot などのセキュリティソフトを使用されている場合、レジストリーで変更が出来るように datasaver S エージェントインストーラーの認可をして下さい。
- もしコンピューターやネットワークでファイアーウォールを導入されている場合、datasaver S と datasaver S エージェントが接続できるように、ポート 5450 を開けてください。操作ご不明の際は貴社管理者様もしくは管理業者様へお問合せ下さい。

■ 解凍ソフト

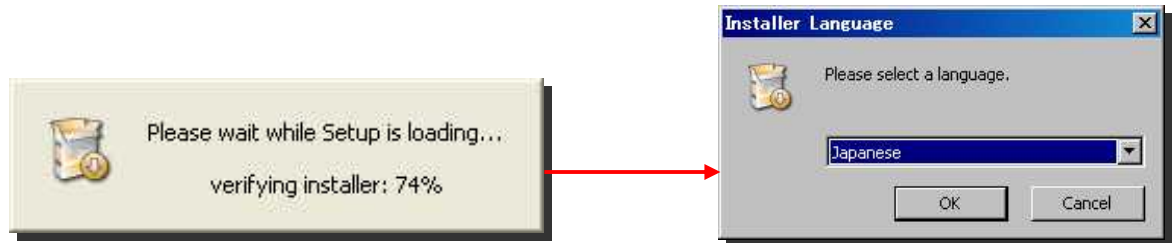
7z 形式の圧縮ファイルを扱える解凍ソフトをご用意下さい。
個別ファイル復旧の際に使用します。

3.1.2. datasaver S エージェントアップグレードのインストール

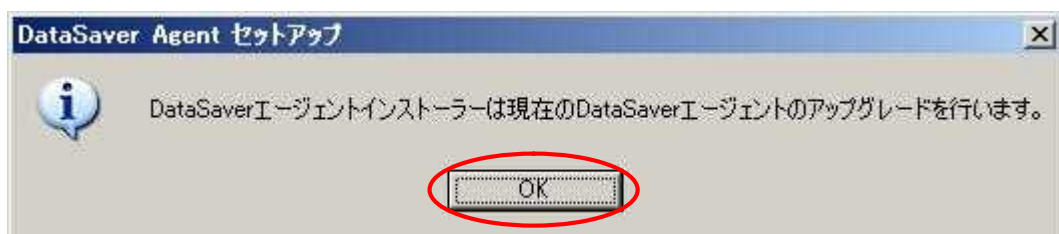
弊社にて最新のエージェントソフトを更新した際は、弊社 WEB サイトに公開いたします。更新プログラムをダウンロードして頂きインストールして下さい。

手順1: 更新プログラムをダウンロードし、実行します。

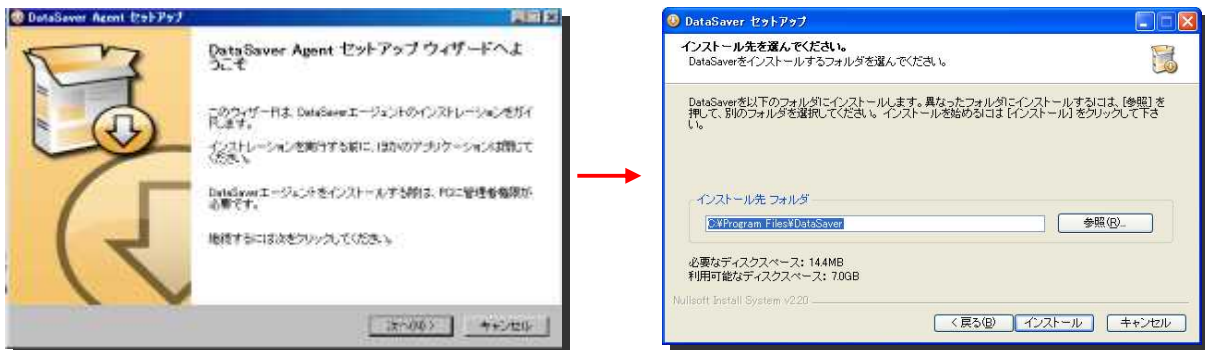
手順3: 画面が切り替わります。【Japanese】を選択して【OK】をクリックします。



手順4: 下記メッセージが表示されますので、「OK」をクリックしてください。



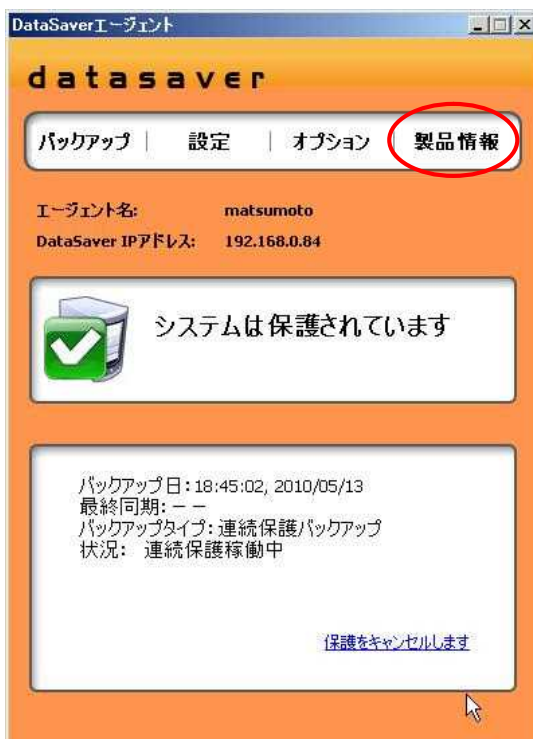
手順5: 画面の指示に従って、インストールプロセスを続けてください。



手順6: datasaver S エージェントインストーラーはインストール過程を完了するために再起動が必要です。



アップグレード後は datasaver S エージェントの「製品情報」を選択しましてバージョンを確認してください。



3.1.3. datasaver S エージェントのアンインストール

手順1: 現在連続差分バックアップが稼働中の場合は、下記 datasaver S エージェント 画面にて【保護をキャンセルします】ボタンをクリックして頂き、連続差分バックアップを停止して下さい。




手順2: スタートメニューまたはコントロールパネル内【プログラムと機能】からアンインストールを実施して下さい。アンインストール後は PC の再起動が必要になります。









3.2. datasaver S エージェント画面紹介

3.2.1. datasaver S エージェントの起動

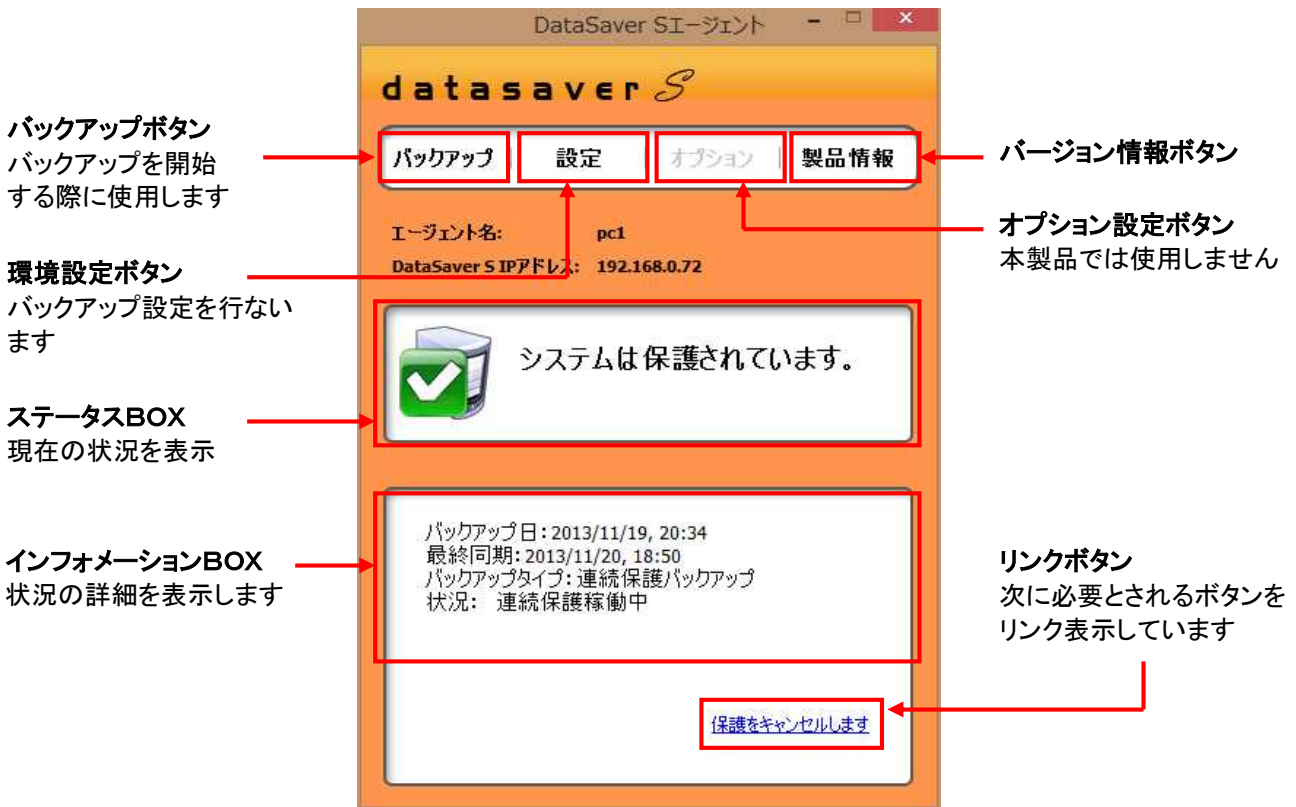
datasaver S エージェントのインストールを行った後、Windows を再起動すると、自動的に datasaver S エージェントが開始されます。

タスクトレイに  アイコンが表示されます。
datasaver S エージェントの状態によりアイコン表示が変化します。

アイコン表示	状態	説明
	エージェント起動中です	エージェントが起動している際に表示されます。
	システムは保護されていません	システムが保護されていない時のみ表示されます。 その他情報がエージェント画面にて表示されます。
	システムは保護されています。	システムが保護されている場合に表示されます。 単独バックアップ時也表示されます。
	バックアップ作成中です。	バックアップを作成しています。
	同期中です。	連続保護バックアップを選択された場合、 最初のフルバックアップ完了後、 同期する際に表示されます。
	警告エージェント起動エラー。	一般的な警告がある場合に表示されます。 エージェントが起動中にエラーになった場合 や最終同期より 24 時間以上経過した場合 にも表示されます。

※アイコンをクリックすると、datasaver S エージェントが表示されます。

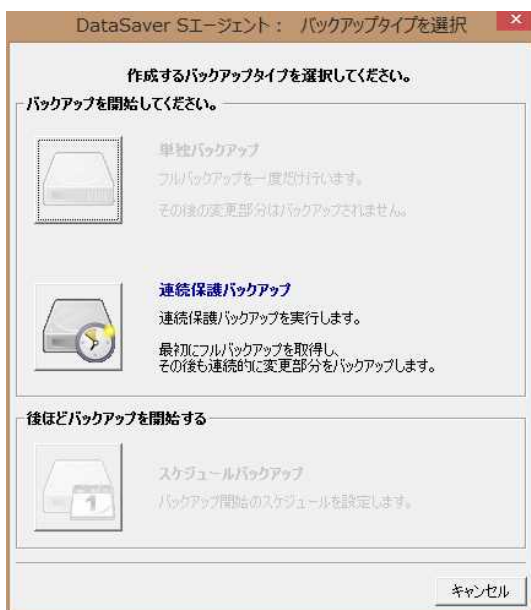
3.2.2. システムメインメニュー



注意 BSI(フルバックアップ)を始める前に、ハードディスクをデフラグされることをお勧めします。

3.2.3. バックアップ

【バックアップ】ボタンをクリックしますと下記画面が表示されます。



【単独バックアップ】

本製品では選択できません。
初回バックアップ時に自動で実行されます。

【連続保護バックアップ】

連続的にリアルタイムで保護されます。
通常はこちらをご使用ください。

【スケジュールバックアップ】

本製品では選択できません。

注意 バックアップを開始する前に環境設定をする必要があります。

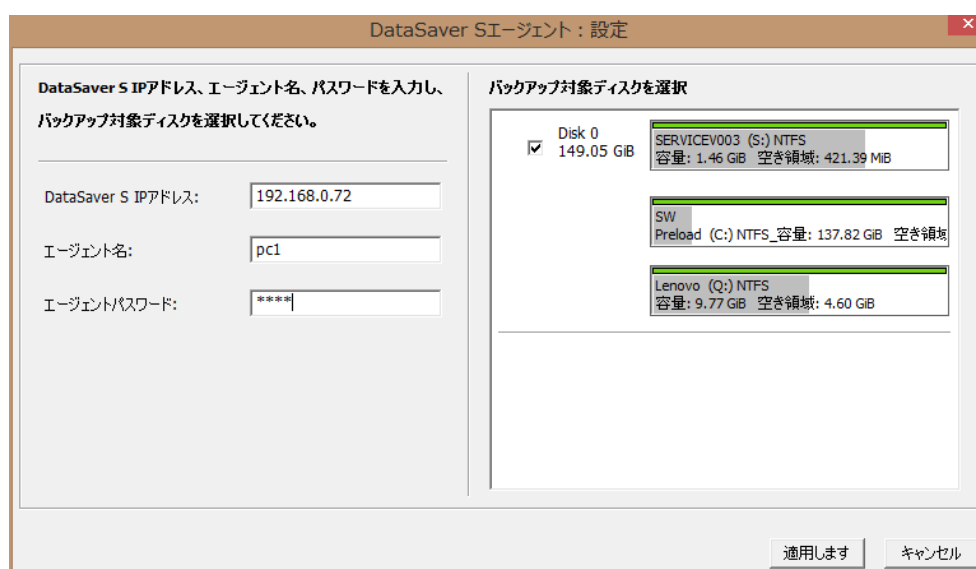
3.3. datasaver S エージェント設定

管理者から与えられた【datasaver S IP アドレス】【クライアント名】と【パスワード】が必要です。

3.3.1. 環境設定

手順1: エージェントの環境設定をするには、メインメニューより【設定】ボタンまたは、【環境設定...】リンクをクリックしてください。

注意 環境設定をする前に、管理者があなたの datasaver S クライアントとパスワードを作成しているか確認してください。

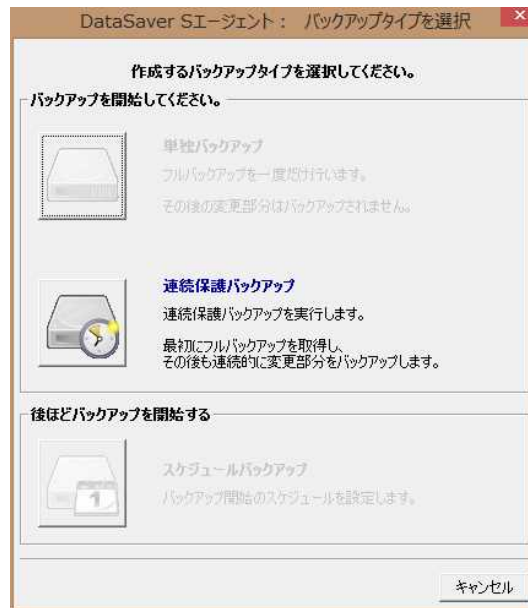


手順2: 【datasaver S IP アドレス】と【クライアント名】と【パスワード】を入力し、右側の【バックアップ対象ディスクを選択】のチェックボックスにチェック☑を入れ、【適用します】をクリックします。この設定により PC と datasaver S が接続されます。
もし認証されなかった場合、datasaver S の IP アドレス、クライアント名、パスワードが正しく入力されたか確認してください。正しく入力しても拒否される場合は、ネットワーク接続や datasaver S の電源が入っているかどうか確認してください。

注意 あなたの datasaver S IP アドレス、クライアント名とパスワードが確かでない場合は、管理者に確認をしてください。

重要 パスワードは大事に保管してください。
全てのディスクをバックアップ対象にすることをお勧めします。

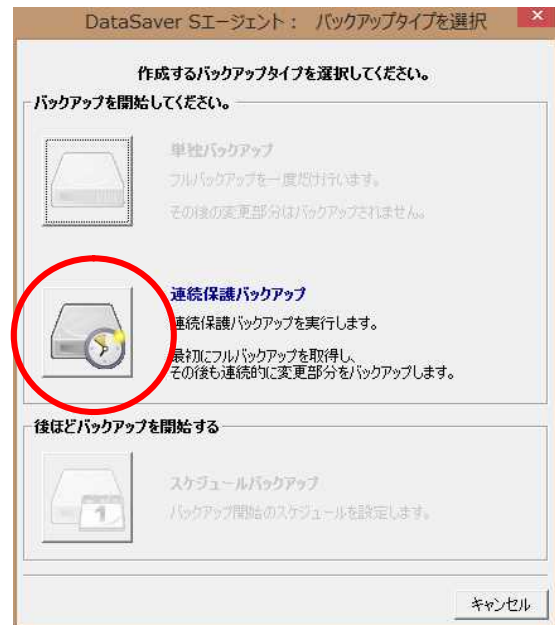
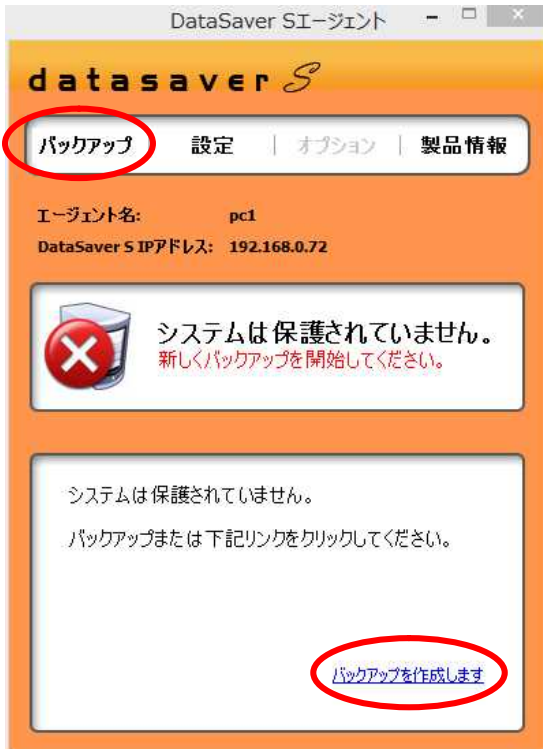
手順3: クライアント名とパスワードが認証されると【バックアップタイプを選択】メニューが表示されます。
【連続保護バックアップ】を選択するとバックアップが開始されます。



3.4. フルバックアップの開始方法

datasaver S エージェントを設定すると、バックアップを開始することが出来るようになります。

手順1: datasaver S エージェントメインメニューの【バックアップ】または右下の【バックアップを作成します】リンクをクリックします。【バックアップタイプを選択】メニューにて【連続保護バックアップ】をクリックするとバックアップが開始されます。



手順2: 初回のフルバックアップ時はメインメニューに進行状況が表示されます。



フルバックアップを実行すると、そのフルバックアップイメージで自動的にリカバリポイントを作成します。その後のスナップショットによるリカバリポイント作成は、手動もしくは datasaver S のスケジューリングにより作動します。

スナップショットをスケジュールするには、管理者に設定を依頼してください。
ユーザー側では、datasaver S の自分のユーザーアカウントにログインして、手動でスナップショットを行うことができます。詳細については、【リカバリガイド】を参照ください。

フルバックアップは、進行状況表示にある【バックアップキャンセル】ボタンで停止させられます。

複数 PC で同時にフルバックアップするときは

ネットワークへの負荷が高くなるため、可能な限り 1 台ずつ行うことが確実です。また、なるべく夜間に稼働することをお勧めします。

※ノート PC のフルバックアップを行う際は、必ず電源アダプターを接続して下さい。電源アダプターが接続されていない状況でフルバックアップを開始しようとすると下記の警告メッセージが表示されます。



※フルバックアップ中に PC の電源が落ちてしまった場合は、フルバックアップ失敗となりますので、電源アダプターを接続した上で、再度フルバックアップを行って下さい。

※以下の場合には必ずフルバックアップを取りなおして下さい。

- ・ システム復旧後
- ・ HDD 交換後
- ・ 大幅なシステムの変更後

3.5. フルバックアップのキャンセル

フルバックアップは、進行状況表示にある【バックアップをキャンセル】ボタンでキャンセルすることができます。

※フルバックアップをキャンセルした場合は、フルバックアップ失敗となり、再度フルバックアップを行う必要がありますのでご注意ください。

3.6. フルバックアップ途中で PC をシャットダウン

フルバックアップの途中でコンピューターをシャットダウンしますと、最初から再度作成する必要がありますのでご注意ください。終了後は自動的に連続差分に切り替わりますので、その際はシャットダウンして頂いて構いません。もし、フルバックアップがいかなる原因により途中で止まってしまった場合、バックアップの再度作成開始をする前に、コンピューターを再起動して下さい。

帰宅前にフルバックアップを開始して頂く場合や、誤ってフルバックアップ中にシャットダウン操作をしてしまった場合でも、下記画面が出ますので【バックアップ完了後シャットダウン】にチェックを入れ、左のカギアイコンをクリックしますと、ログオフ状態になり、フルバックアップが終了しますと自動でシャットダウンを行います。



注意 もしフルバックアップ作成を途中で止めた場合、新規のフルバックアップが作成されるまで、連続差分バックアップ機能は動作しません。進捗状況はデスクトップ右下に表示されます。

注意 毎月もしくは隔月ごとに新しくフルバックアップを作成されることをお勧めします。これは連続差分バックアップが最新に作成されたベースシステムイメージを基本に作動するためです。

3.7. 連続差分バックアップ

3.7.1. 連続差分バックアップとは？

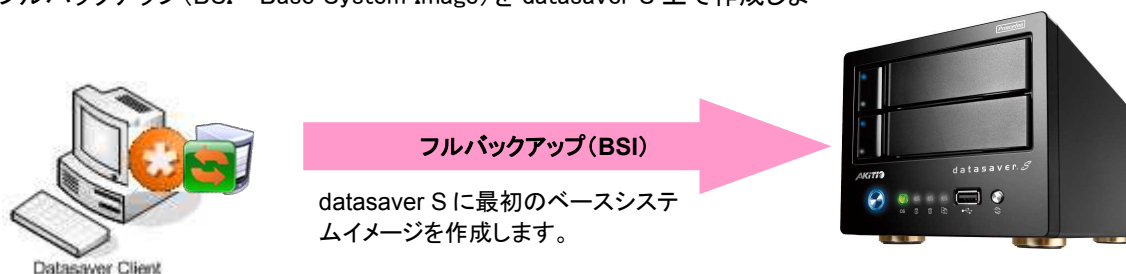
連続差分(保護)バックアップとは、最初に作成したフルバックアップ(ベースシステムイメージ)と、その後に変更された箇所をエージェントが監視し、変更箇所(差分)のみを随時 datasaver S へバックアップする機能です。

全ての差分は datasaver S へ転送され、設定されたスケジュールでリカバリポイントとしてベースシステムイメージに組み込まれます。

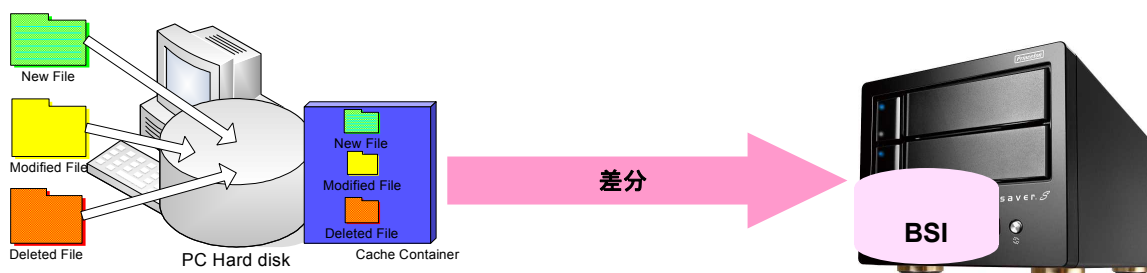
ただし、連続差分バックアップの間にエージェントがネットワーク接続不具合など、いかなる原因で datasaver S に接続が出来ない場合でも監視は継続し、エージェントが datasaver S に再度接続が出来次第、変更などを転送します。連続差分バックアップは、コンピューターを再起動しても、自動的に再開します。

3.7.2. 連続差分バックアップの簡単な図式


最初にフルバックアップ(BSI=Base System Image)を datasaver S 上で作成します。

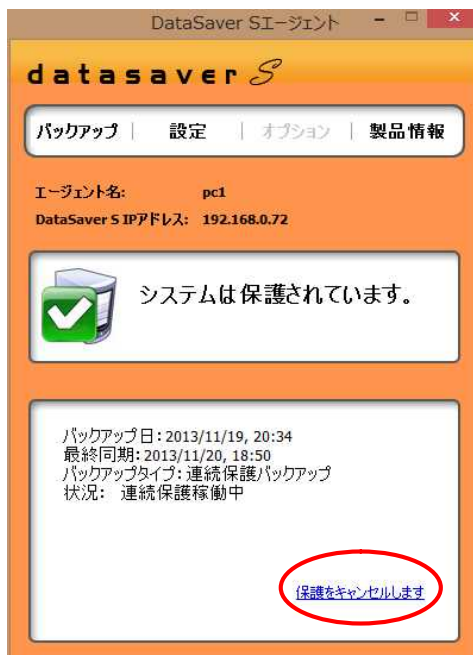


このフルバックアップ作業を終えたら、datasaver S エージェントはコンピューターの全ての変更箇所を監視します。変更が発見されたら、それら変更箇所は datasaver S に転送され、自動的にベースシステムイメージに組み込まれます。



3.7.3. 連続差分バックアップの停止

手順1: 連続差分バックアップの稼動状況を確認します。デスクトップ上、右下のシステムトレイにある緑色のアイコン  または、エージェントメインメニューでの状況ボックスで確認が出来ます。



手順2: コンピューター上で完全に連続差分バックアップを停止させるには、【保護をキャンセルします】ボタンをクリックしてください。

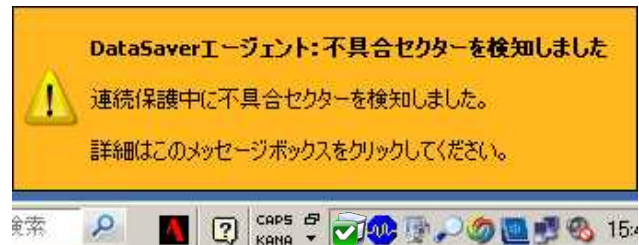


注意

連続差分バックアップを停止した後に再度連続差分バックアップを再開すると、フルバックアップの作成が開始されるのでネットワークに負荷が掛かります。

3.7.4. 不具合セクタ検知が表記されたら

不具合セクタ検知機能: バックアップ対象 PC の HDD に不具合セクタがある場合、検知して警告致します。datasaver S は HDD を丸ごとバックアップする性質上、不具合セクタも同時にバックアップするため、障害時に不具合セクタが原因で復旧されない可能性もございます。よって、それに備えて事前に警告を発する機能です。



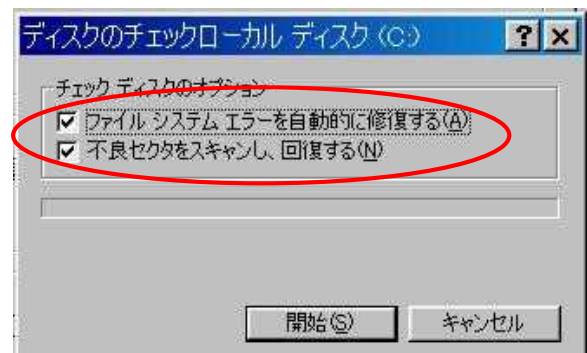
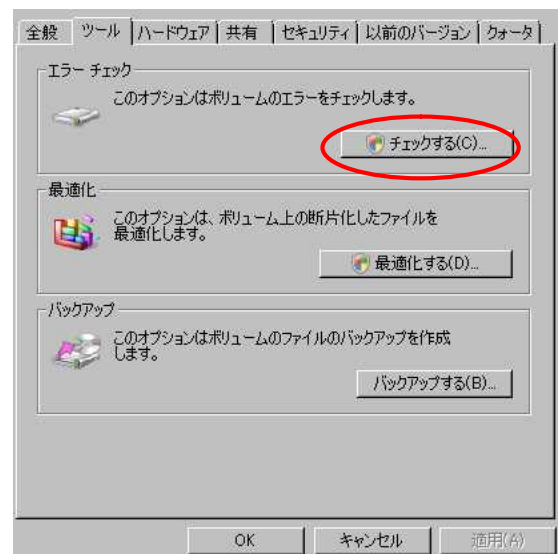
【対処方法】

不具合セクタが検知された場合、ディスクチェックを行って頂くことをお勧めします。

下記実行後は必ず再度フルバックアップを行って下さい。

Windows XP の場合


- ① エージェントの【保護をキャンセル】を押して、連続保護バックアップを停止します。
- ② C の各ドライブをディスクのチェックを行います。
【マイコンピュータ】を開き、Cドライブを右クリックし、【プロパティ】をクリックします。
- ③ 【ツール】タブ中の【エラーチェック】部の【チェックする】ボタンを押して下さい。
- ④ チェックボックスにチェック☑を入れ、【開始】ボタンを押して下さい。
- ⑤ 終了しましたら、必ず PC を再起動して下さい。
- ⑥ その後、再度フルバックアップを行って下さい。




第4章 リカバリガイド

本章では、コンピューターの復旧方法について解説しています。

4.1. バックアップ対象 PC のドライバがリカバリツールに対応しているかの確認

 **重要** 製品付属の『はじめにお読み下さい』に記載の手順をご参照ください。


4.2. datasaver S で最新のリカバリポイントを作成

 **重要** 完全復旧をする場合や、ファイルやフォルダー単位を個別に復旧する場合、復旧作業を行う前に、手動で最新のリカバリポイントを作成しておくことをお勧めします。

手順1: ウェブブラウザ (Internet Explorer, Firefox 等) を開いて datasaver S の IP アドレスを直接入力します。datasaver S の IP アドレス情報は管理者に連絡をとってください。

手順2: エージェントログイン画面で【エージェント名】および【パスワード】を入力してください。エージェント名やパスワードがわからない場合は、管理者に連絡をとってください。



 **重要** エージェント名およびパスワードの大小文字の区別も忘れないようにしてください。

手順3: 初めて datasaver S にログインする場合は、パスワードの変更するように指示されます。パスワードを変更するには、上段のメニューバー上の【設定】ボタンをクリックして下さい。※変更しない場合は手順 4 に進んで下さい。

重要 情報保護のためパスワードを変更することをお勧めします。

手順4: 上段のメニューバー上の【リカバリポイント】をクリックし、リカバリポイントの管理画面へ進みます。

手順5: リカバリポイントの閲覧画面が下記のように表示されます。
最新のリカバリポイントを作成するには【スナップショット作成】ボタンをクリックして下さい。

【しばらくお待ちください】の画面のあと、最新のリカバリポイントが作成されます。

4.3. ファイルおよびフォルダーの復旧

4.3.1. リカバリポイントを見る方法・ファイル/フォルダー復旧

ダウンロードの制限



個別ファイル復旧はウェブブラウザを使用し、datasaver S から PC へダウンロードして復旧させます。2GB 以上の個別ファイルを復旧させる場合、ブラウザによってはダウンロード容量制限により復旧出来ない場合があります（datasaver S 内の表示容量ではなく、元の PC 内でのデータ実容量です。datasaver S 側では圧縮されていますため容量が違います）2GB 以上のダウンロードが可能なブラウザを使用するか、なるべく大容量のフォルダーやファイルを多数選択はせず、ファイルを分けてダウンロードを行ってください。

手順1: 上段メニューから【リカバリポイント】をクリックすると datasaver S はリカバリポイントのリストを表示します。

エージェント名: pc1	連続保護: 完了 (21 Nov 2013 16:53)	最終同期: 稼働 (21 Nov 2013 18:53)	サイズ: 37.86 GiB	リカバリポイント: 5 (リカバリポイントの最大数: 10)	現在のスケジュール: 毎日: 00:00 (hh:mm)
21 Nov 2013 18:53	スナップショット作成				
21 Nov 2013 04:53 PM (12.50 GiB)	ファイル/フォルダを復旧	ロックされています			
21 Nov 2013 01:00 PM (615.13 MiB)	ファイル/フォルダを復旧	消去			
20 Nov 2013 07:07 PM (12.34 GiB)	ファイル/フォルダを復旧	ロックされています			
20 Nov 2013 06:56 PM (72.29 MiB)	ファイル/フォルダを復旧	消去			
19 Nov 2013 08:34 PM (12.31 GiB)	ファイル/フォルダを復旧	ロックされています			

もし datasaver S 側でリカバリポイント(スナップショット)が作成されている途中で PC 中のファイルを開いたり、変更したりした場合は、システムデータの未保護、データ消失、破損が発生する恐れがあります。

よってリカバリポイントの作成スケジュールは夜間などの作業時間外として下さい。

いくつかのリカバリポイントは、管理者によってロックされている場合があります。あなたの管理者によってロックされたリカバリポイントを削除することはできません。確かでない場合は、管理者に確認してください。

手順2: ファイルまたはフォルダーを復旧するために、どれか1つのリカバリポイントの【ファイル/フォルダを復旧】ボタンをクリックしてください。



最後のリカバリポイントがやや古い場合は、【スナップショット作成】ボタンをクリックし、最新の変更されている新しいリカバリポイントを作成することができます。

手順3: リカバリポイントの 1 つにアクセスする際、datasaver S は、その内部のドライブを表示します。閲覧したいディスクドライブの【ドライブ内を参照】ボタンをクリックしてください。



ドライブをブラウズした後、ドライブ内のファイルとフォルダーを見ることができます。ここからコンピューターに復旧させたいファイルとフォルダーを手動で戻すことができます。

手順4: ファイルやサブフォルダを見るために、フォルダーをクリックしてください。各ファイルやフォルダーを復旧させるためには、そのファイル名をクリックしてください。

もし、フォルダーまたは多数のファイルを復旧したい場合、そのファイルおよびフォルダーの隣のチェックボックスにマークをし、次に【選択した ファイル/フォルダー を保存】ボタン をクリックしてください。



手順5: datasaver S からのダウンロードが始まるので保存をクリックして下さい。



4.3.2. 解凍ソフトのインストール

解凍ソフトのインストール

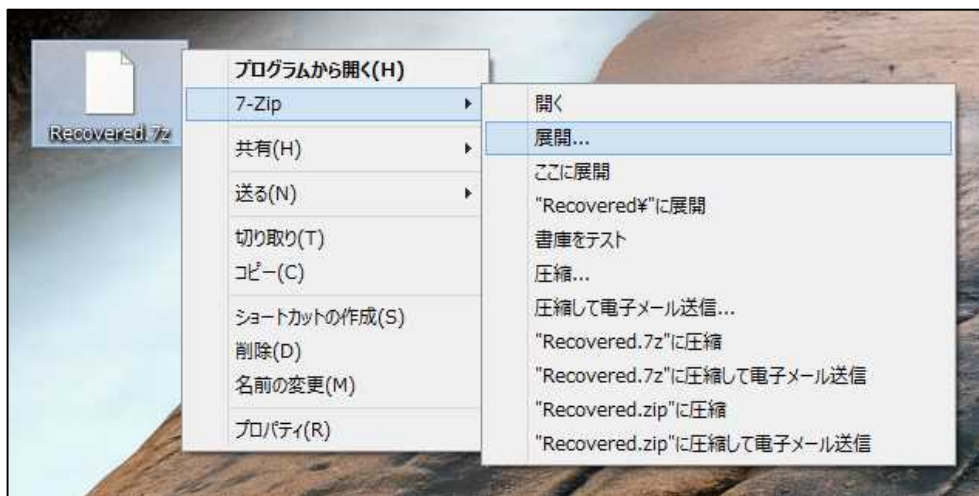
保存した個別復旧ファイルの展開には 7z 形式の圧縮ファイルに対応した解凍ソフトが必要です。あらかじめインターネットよりダウンロードし、PC にインストールしておいて下さい。



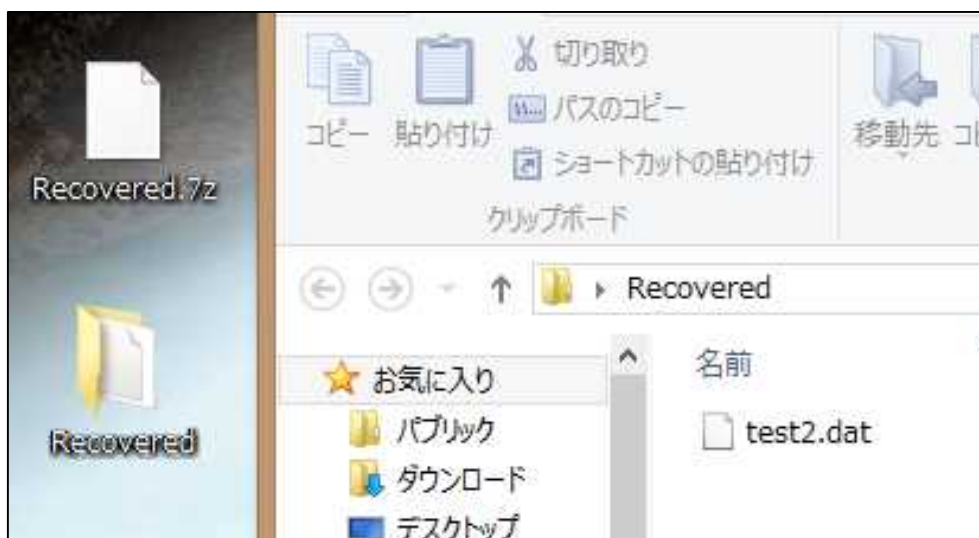
個別復旧ファイルは Unicode 形式の文字コードのため、Unicode 形式に非対応の解凍ソフトではフォルダー名／ファイル名が文字化けする場合があります。弊社では「7-Zip (9.30 alpha)」にて正常に解凍出来る事を確認しています。

4.3.3. 復旧したファイルの解凍方法

保存された圧縮ファイル【Recovered.7z】を解凍して下さい。(下図参照)



解凍され復旧したファイルが扱えるようになりました。



4.4. 全システムの復旧

注意

万一、PC の HDD が物理的に故障している事が明白な場合には、すぐさまには datasaver S による完全復旧を行わず、先に交換・修理を行ってから完全復旧を行ってください。壊れている HDD に対して復旧の為の上書きを行いますと、壊れている HDD からのデータ・サルベージが必要になった際に困難になります。

確認

必ず導入前に、既存の PC が CD から起動出来るか確認して下さい。PC の BIOS 設定が必要な場合があります。
必ず製品付属の『はじめにお読み下さい』に記載の手順をご参照ください。

もしコンピューターが故障して、再起動できない場合、datasaver S のリカバリーツールを使ってゼロから完全復旧し、すべてのデータシステムを修復することができます。

復旧を始める前に、次の情報を準備する必要があります。

- ・ あなたの datasaver S の IP アドレス → 分からない場合は、管理者に確認してください
- ・ 復旧させたいコンピューターのエージェント名
- ・ そのパスワード

手順1: PC の USB ポートに付属の USB メディア(リカバリーツール)を挿し、コンピューターを起動してください。



USB メディア(リカバリーツール)の複製

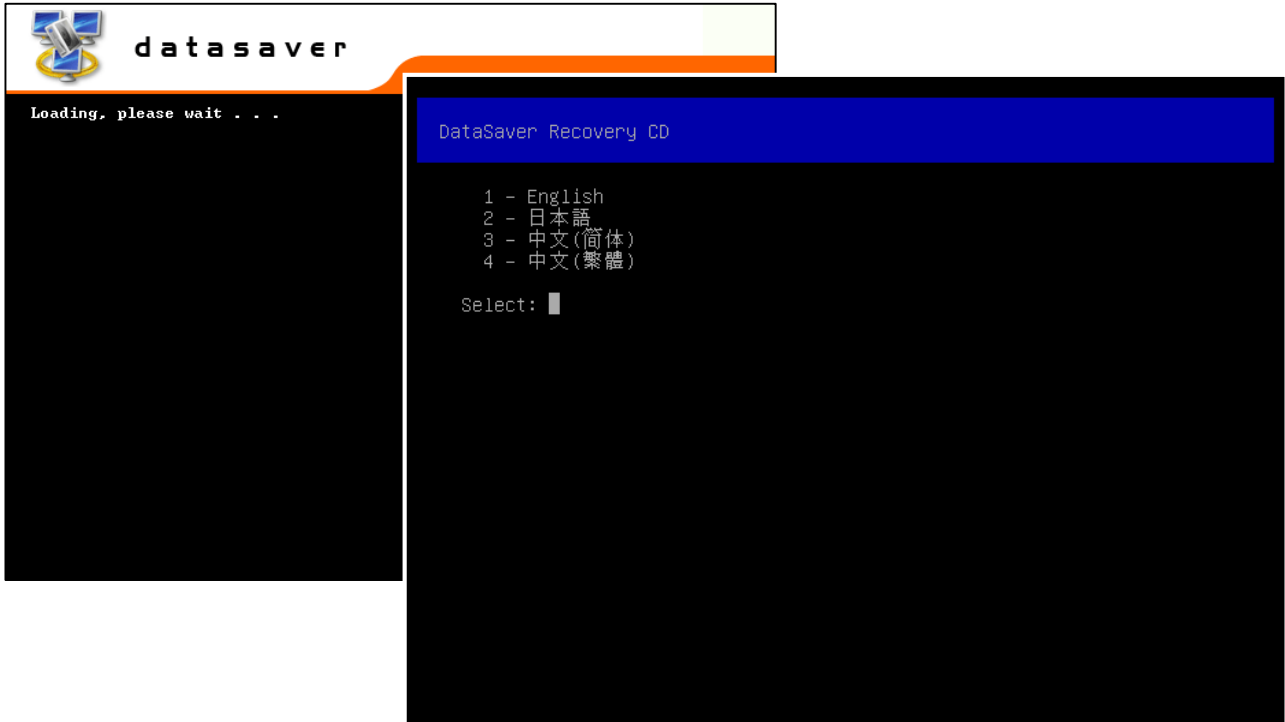
もし USB メディアが見つからない場合や USB メディア内のデータを消去してしまった場合は、datasaver S のサポートウェブサイトより新しくダウンロードをして USB メディアを作る必要があります。

手順2: USB メディアにより再起動がされた後、【datasaver S】の画面が表示されます。

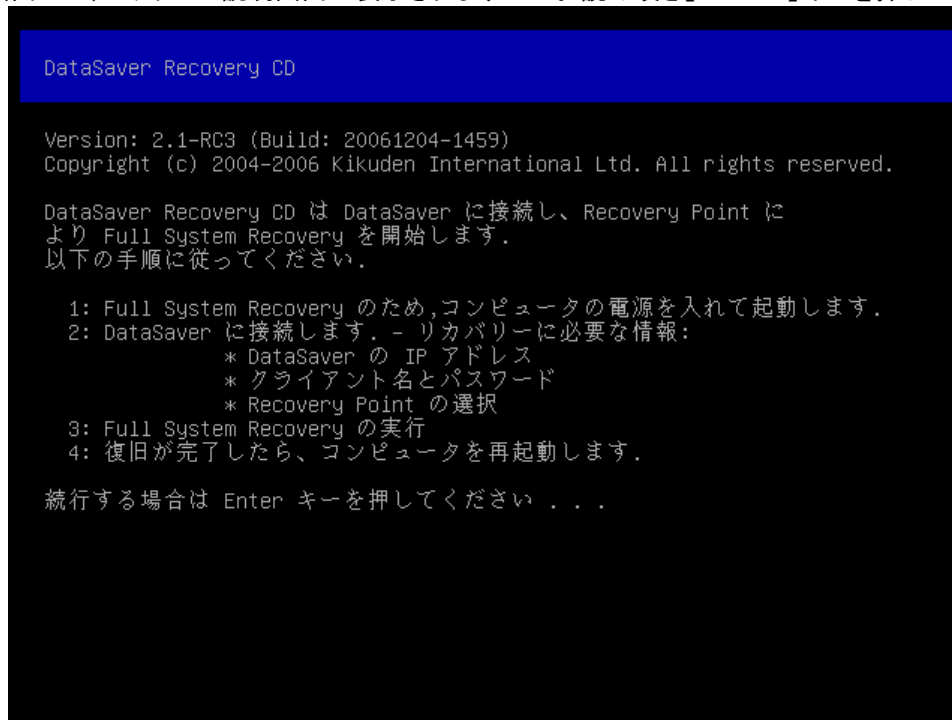
キーボードで **rec** と入力し【Enter】キーを押すとリカバリーツールが起動します（復旧時の入力画面は英語表示になりますことをご了承ください）



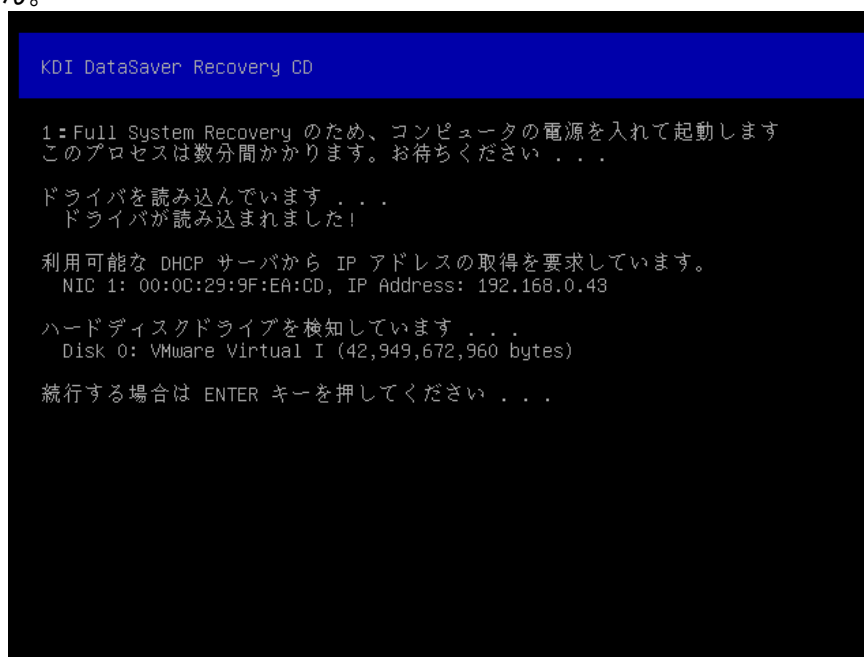
手順3: 言語選択をします。日本語で実行する場合は【2】を入力し【ENTER】キーを押してください。






手順4: 下記画面にて、ステップの説明画面が表示されますのでお読み頂き【ENTER】キーを押してください。



手順5: 下記画面にてリカバリツールは、復旧させるコンピューターに、ネットワークから新しい IP アドレスを自動的に得ることを試みます。しかし、それができない場合、管理者から固定 IP アドレスを取得しなければいけません。

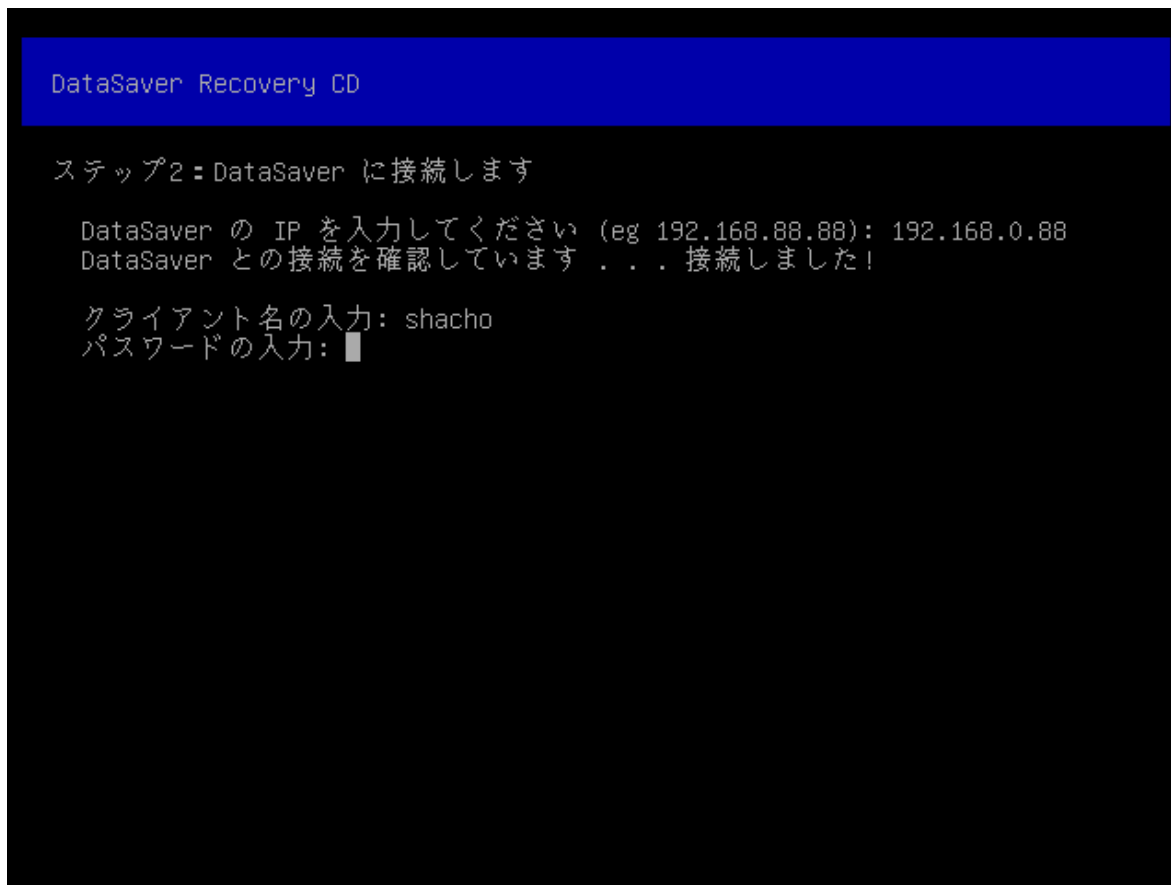


 注意	復旧させるコンピューターには datasaver S と通信するための有効な IP アドレスが必要です。が、分からない場合は管理者に確認してください。
 注意	リカバリツールは復旧するコンピューター内で発見された HDD のリストを表示します。検知された HDD のリストが正確であることを確認してください。
 注意	バックアップを作成した時の HDD のサイズが、新しく使用する HDD と同等か、それより大きいことを確認してください。十分なディスクスペース容量がない場合、復旧を続けることが出来ません。

手順6: 有効な IP アドレスがあり、HDD のリストが正確な場合は、継続するために、【ENTER】キーを押してください。

datasaver S に接続

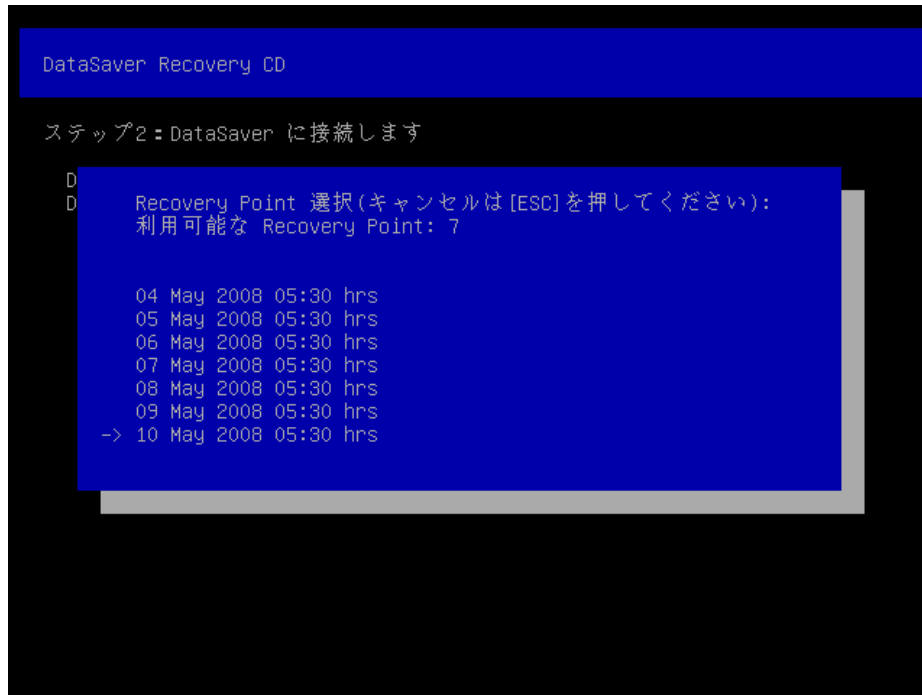
手順7: datasaver S の IP アドレスを入力するように指示されます。datasaver S の【IP アドレス】を入力後、【ENTER】キーを押してください。



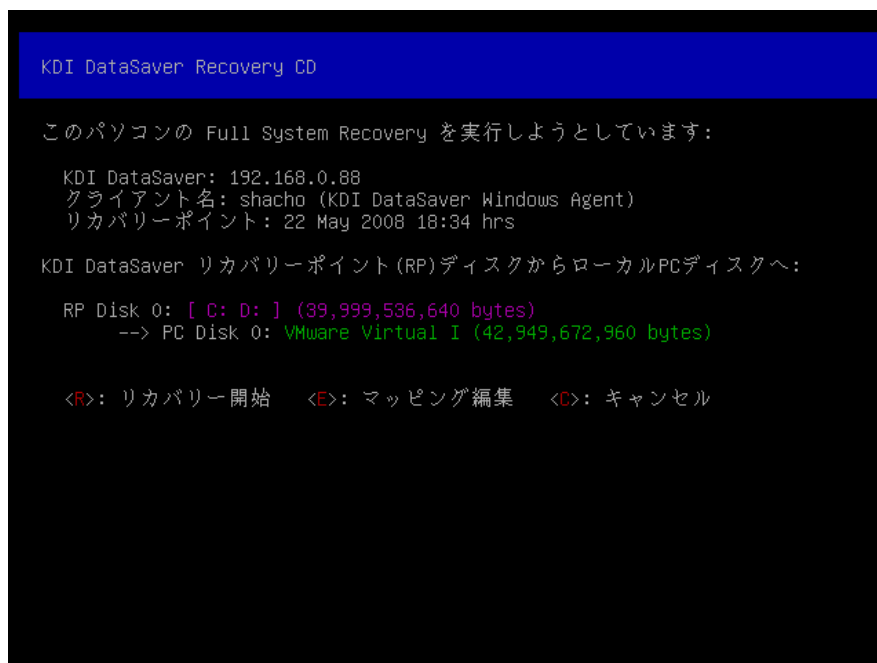
手順8: datasaver S に接続が出来たら、クライアント名およびパスワードを入力するように指示されます。【クライアント名】を入力し【ENTER】キーを押してください。【パスワード】を入力し【ENTER】キーを押してください。

➡ 注意 パスワードは入力しても表示されません。入力後そのまま ENTER キーを押してください。

手順9: 有効なクライアント名およびパスワードを入力した後、リカバリポイントを選択するように指示されます。【↑ ↓】の矢印キーを使用して、カーソルを上下に移動させ、復旧するポイントを決めて下さい。



手順 10: 修復したいリカバリポイントを見つけたら【Enter】キーを押して下さい。その後、下記確認画面が出てきます。リカバリ開始の【R】を押して、本当に選択したリカバリポイントでよろしければ、はい(Yes)を選択して【Enter】キーを押して下さい。



注意 コンピューター内の既存データは、上書きされて消去されます。

手順 11: ゼロから完全復旧が始まります。
データの容量やネットワーク環境により、復旧が完了するまでに掛かる時間が異なります。ここからは自動的に行われ、完了するまではプロンプト指示が出る事はありません。



手順 12: 復旧が完了したら USB メディアを取り除いて、コンピューターを再起動する為に【Enter】キーを押してください。正常なシステム、ソフトウェア、プログラム、ファイル、フォルダーおよび各種設定などが完全に復旧され、リカバリポイント保存時の環境に戻ります。

注意 ゼロから完全復旧を終え、全システムを修復した後、再度バックアップを始める為に新しいベースシステムイメージ(BSI)を作成する為、フルバックアップをしなければいけません。ベースシステムイメージを作成されたら、連続差分バックアップ機能でコンピューターを保護し続けます。

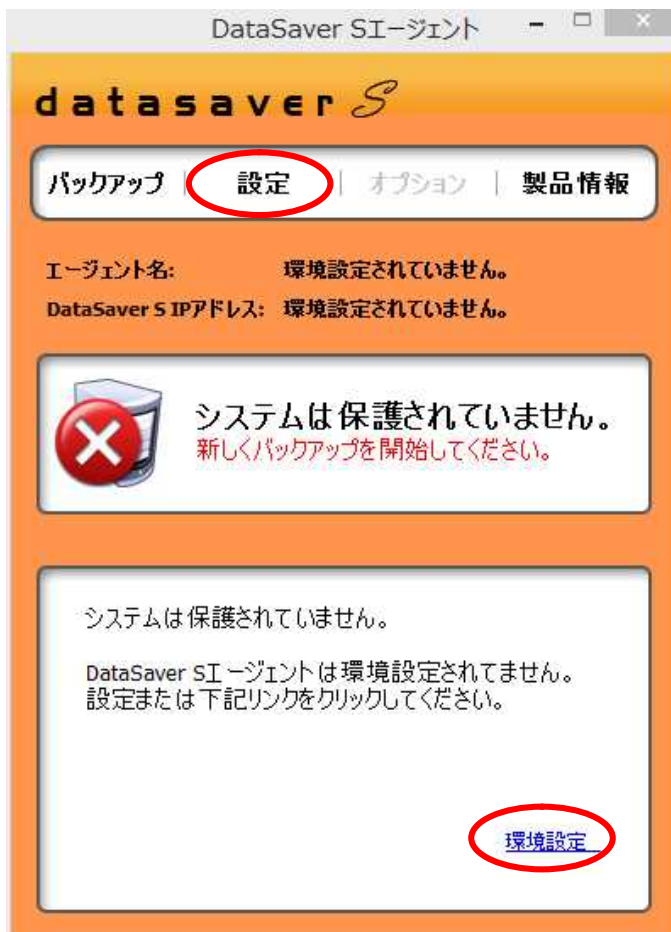
4.5. 復旧後のフルバックアップ

リカバリ復旧後は必ずエージェントの再設定をし、バックアップを実行してください。

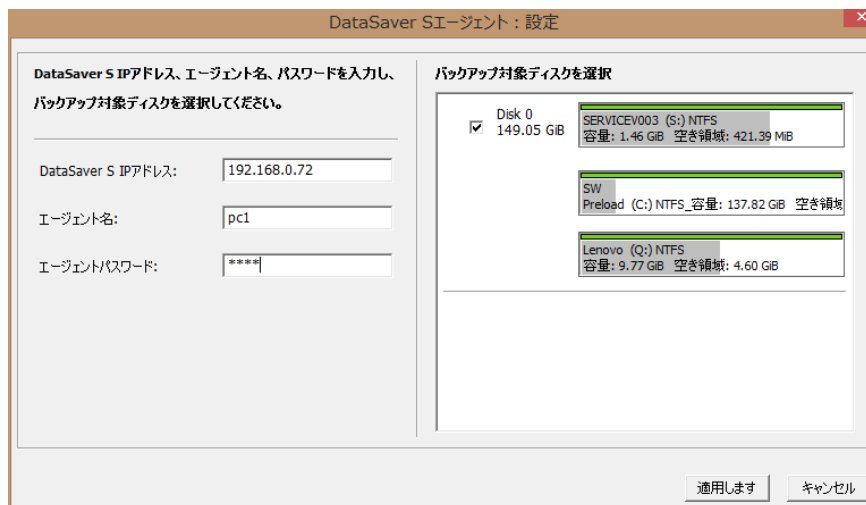
手順 1: リカバリ復旧後に datasaver S エージェントのアラートが表示されます。「OK」をクリックすると datasaver S エージェントが起動します。



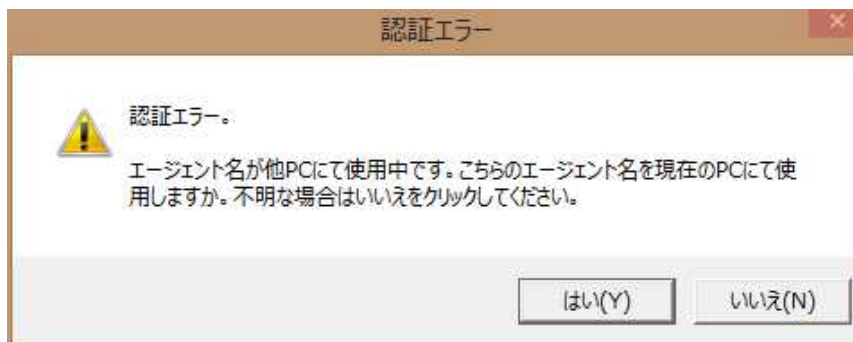
手順 2: datasaver S エージェントの設定をするには、メインメニューより【設定】ボタンか【環境設定…】ボタンをクリックして下さい。エージェントの設定メニューが開きます。



手順 3: 【datasaver S IP アドレス】【エージェント名】【パスワード】を入力し、右側の対象ディスクのチェックボックスにチェック☑を入れ、【適用します】をクリックして下さい。この設定により PC が datasaver S に登録されます。もし認証がされなかった場合、datasaver S の IP アドレス、エージェント名、パスワードが正しく入力されたか確認してください。正しく入力しても拒否される場合は、ネットワーク接続や datasaver S の電源が入っているかどうか確認してください。



手順 4: 下記の画面が表示されますので、同じエージェント名を使用する場合は「はい」を選択してください。



手順 5: バックアップタイプの選択にて「連続保護バックアップ」ボタンをクリックしてください。



手順 6: バックアップが開始されるとフルバックアップ作成の進行状況が表示されます。



付録

付録 1. 制限事項・注意事項**■ datasaver S OS に関する制限事項・注意事項**

カテゴリ	制限事項・注意事項
対応クライアント OS	Windows 8.1/8/7 SP1/Vista SP2 (32bit/64bit)、XP SP3 (32bit) Windows Server 2003/2003R2 SP2 以上/2008 (32bit/64bit)、 2008R2/2012/2012R2 (64bit)
対応ファイルシステム	NTFS、FAT32(但し、Cドライブが FAT32 の場合は非対応)
非対応ボリューム	ダイナミックボリューム、GPT ディスク、圧縮ボリュームは非対応
Microsoft SQL Server	Microsoft SQL Server 2005 以上に対応
Oracle	非対応
暗号化ソフト	対象 PC に HDD 暗号化ソフトがインストールされている場合は、対応できない場合があります。 貸出機による事前検証を推奨しております。

付録 2. ソフトウェアの使用許諾契約

デジタルアーティファクト株式会社(この文書において“本件の供給者”と呼称される)

ソフトウェアの使用許諾契約の条項たる条件に関する告示

当事者である貴方は、この商取引に基づいて認可を付与されたソフトウェアのコピーのインストール、およびその使用の以前に、以下に明記されたソフトウェアの使用許諾契約の条項たる条件を検討した上で、それに対しての受諾を行わなければならないものとする。当事者である貴方による前記のソフトウェアに関する使用、および/またはインストール、および/またはコピーは、本件のソフトウェアの使用許諾契約の条項たる条件についての貴方の無条件の、および撤回不能の受諾とする。当事者である貴方が、本件のソフトウェアの使用許諾契約の条項たる条件に同意しない場合、貴方は前記のソフトウェアのインストール、もしくはその使用を行ってはならないとともに、本件の供給者により当事者である貴方に提供される全てのソフトウェア/製品等、およびその他のあらゆる資料/文書/媒体を即時に返却しなければならないものとする。さらに、当事者である貴方は、この商取引に基づいて提供されるソフトウェア/製品(等)に関して、当事者である貴方の創作したそれらのあらゆるコピーを即時に削除しなければならないものとする。

いかなる場合であっても、この商取引に基づいて認可が付与される本件のソフトウェアにおいてデジタルアーティファクト株式会社から当事者である貴方による直接購入を含む商取引については、その代金の返還が行なわれないものとする。ただし全てのソフトウェア/製品等、およびその他のあらゆる資料/文書/媒体が、この商取引に基づいて認可を付与された本件のソフトウェアのコピーを貴方が取得した日から7日以内にデジタルアーティファクト株式会社に対して返却された場合を除く。

ソフトウェアの使用許諾契約

第1条 前文

この契約は、神奈川県横浜市港北区北新横浜 1-11-1 にその住所を有するデジタルアーティファクト株式会社(以下「本件の供給者」という)と(場合によっては)発行される認可証明書において被認可人として確認される法主体*、または個人、および/または(場合によっては)特定のコンピューター・プログラムに関する認可、およびインストールへの認可番号が発行された法主体、または個人(以下「本件の顧客」という)との間で締結されるものとする。

第2条 定義

関連資料

関連資料とは、操作マニュアル、およびその他の印刷された資料を意味し、これには、認可を付与されたプログラムに関する理解やその適用を援助、または補助するために作られた、およびその媒体(例: CDROM)に対するソフトウェアのインストールに含まれ、本件の供給者のウェブサイトで利用可能なユーザー・ガイド、ユーザー・マニュアル、プログラミング・マニュアル、修正マニュアル、フロー・チャート*、図面、およびソフトウェアのリストが含まれるものとする。

効力発生日*

効力発生日とは、本件の顧客がこの契約の第4条に基づいて認可を付与されたプログラムを受諾する、あるいは受諾したものとみなされる時点における日を意味する。

指定機器

指定機器とは、本件の供給者から本件の顧客が購入した datasaver S®接続した、およびその認可を付与されたプログラムが本件の顧客により使用されるその顧客の指定建物に設置したコンピューター機器を意味する。

不可抗力*

不可抗力とは、本件の供給者が合理的に支配することのできないあらゆる行為、不作為、またはその状況を意味する。

認可

認可とは、この契約に基づいて本件の顧客に対して本件の供給者により付与される認可を意味する。

認可を付与されたプログラム

認可を付与されたプログラムとは、何らかの関連資料、および証拠資料、本件のプログラムに関する何らかの強化、修正、またはニューリリース*に伴い、機器による読み取り可能な媒体における一組の説明、または表明から成り立つデータ・セーバー(datasaver S)に関する顧客のソフトウェアを意味する。

特別な規定により除外されない限りにおいて、単数形の意味を含む単語は、複数形の意味を含むものとし、その逆に、複数形の意味を含む単語は、単数形の意味を含むものとする。さらに、一つの性についての単語は、その他の性を含むものとする。

第3条 契約の範囲

本件供給者は、指定機器において認可を付与されたプログラムを使用するための譲渡不可の、および非独占の認可を、本件顧客に対して付与する。

第4条 認可を付与されたプログラムの受諾および契約の期間

第4条-第1項

本件の顧客は、認可を付与されたプログラムのインストールの手續きの間、本件のプログラムの受諾、および契約の条項たる条件に対する合意を確認することにより、または認可を付与されたプログラムを使用することにより、認可を付与されたプログラムを受諾するとともに、この契約における全ての条項に同意をしたものとする。本件のプログラムを使用する場合、本件の顧客は、その認可を付与されたプログラムを受諾したものとみなされるとともに、その使用の開始の時点においてこの契約の全ての条項に同意をしたとみなされる。

第4条-第2項

この契約は、効力発生日からその法律的な効力を生じるとともに、この契約によって、いずれかの当事者が終了させるまで継続的に存続する。

第5条 操作に関する仕様書

第5条-第1項

本件の供給者は、認可を付与されたプログラムに関しての操作上の特性を明確にする仕様書を関連文書の中に含むものとする。

第5条-第2項

本件の供給者は、前項の仕様書をしばしば部分的に変更する、代替する、または修正する。認可を付与されたプログラムには、そのような何らかの部分的な変更、代替、または修正にもかかわらず、この契約が適用される。

第6条 資料

第6条-第1項

本件の顧客は、関連資料がその認可を付与されたプログラムの妥当な使用のために十分な情報を含んでいるという条件が充足されているということ承認する。

第6条-第2項

関連資料は、認可を付与されたプログラムに関して、この契約において課されるようなコピー、および修正に関する制限、または法律により課されるようなその他の制限に従うものとする。認可を付与されたプログラムの通常の使用に関連する場合を除き、本件の顧客は関連資料を使用してはならない。

第6条-第3項

本件の供給者は、必要であるとみなされる場合、あらゆる、および全ての関連資料、もしくは仕様書をしばしば部分的に変更する、代替する、または修正することができるものとする。さらに、認可を付与されたプログラムは、そのような何らかの変更、代替、または修正にもかかわらず、この契約が適用される。

第7条 認可

第7条-第1項

本件の供給者は、本件の供給者が本件の顧客に対して認可を付与する権利、および権限を有するということを保証する。

第7条-第2項

本件の顧客は、指定機器に関して、および関連資料、またはその他の書面において本件の供給者により本件の顧客に対して通知された通常の操作上の手續きに従うことによってのみ認可を付与されたプログラムを使用することができる。

第7条-第3項

本件の顧客は、本件の供給者の事前の書面による同意なしで、認可を付与されたプログラムのコピー、変更、修正、もしくは複製を行ってはならないものとする。

第7条-第4項

この契約に基づき認可を付与されたプログラムを使用することができるのは、本件の顧客に限定されるものとする。

第7条-第5項

認可を付与されたプログラムのあらゆる無許可の使用、変更、修正、複製、発行、開示、または譲渡がなされた場合、本件の供給者は、差止命令*による救済を含んだ本件の顧客に対する法律上の手段をとることができる。

第7条-第6項

この契約におけるいかなる規定であっても、アップグレード、または強化、もしくはその他のものを提供することによるかどうかにかかわらず、認可を付与されたプログラムを管理する義務を本件の供給者に負担させないものとする。本件の顧客がそのような管理を要請する場合、当事者間の別途の契約によるものとされる。

第8条 コピー

第8条-第1項

第8条の第2項に従い、本件の顧客は、本件の供給者の事前の書面による同意なしで、いかなる手段、または方法によっても、認可を付与されたプログラム、もしくは関連資料のコピー、あるいは複製を行ってはならないものとする。

第8条-第2項

本件の顧客は、バックアップ、および安全対策を目的として、認可を付与されたプログラムの一つのコピーを作成することができるものとする。本件の顧客は、本件の供給者の財産としてそのようなコピーを承認する。前記のコピーに対して、この契約の条項が必要な修正をなされて適用されるものとする。

第8条-第3項

本件の顧客は、(該当する場合において)著作権に関する本件の供給者の有する所有権についての告示、および認可を付与されたプログラムが本件の供給者に対する機密性を有した情報を含んでいるということを明記した告示が、認可を付与されたプログラムのコピーに対して添付されているということを保証する。本件の顧客は、そのような告示の形式、またはその内容に関して、本件の供給者のあらゆる指示に対して従うものとする。

第9条 修正の不可

本件の顧客は、認可を付与されたプログラムの修正、あるいはその変更を行なわないとともに、認可を付与されたプログラムの全て、またはその一部をその他の認可を付与されたプログラムと結合してはならない。

第10条 リバース・エンジニアリング*

本件の顧客は、認可を付与されたプログラムの全て、またはその一部に対するリバース・アSEMBル、またはリバース・コンパイルを行なわないとともに、直接的、または間接的に、認可を付与された本件のプログラムの全て、またはその一部に対するリバース・アSEMBル、またはリバース・コンパイルを第三者に許可したり、第三者に行なわせてはならないものとする。

第11条 ニューリリース/アップグレード

第11条-第1項

本件の顧客は、本件の供給者からの認可を付与されたプログラムへのアップグレードを取得/購入することができるものとする。さらに、本件の顧客は、当該アップグレードに対して本件の供給者が自己の自由裁量で課する可能性のある何らかの手数料/料金を支払うものとする。

第11条-第2項

この契約に基づいて本件の顧客により支払われるべき全ての手数料および料金には、この契約、またはその他に基づいて認可を付与されたプログラム、その使用、またはその管理に賦課される可能性のある、またはそれらに関して賦課される可能性のあるあらゆる税金、関税、手数料、料金、またはその他の政府による課税、または課徴金を含まない。そのような税金、関税、手数料、料金、またはその他の政府による課税は、支払期限に至る際、本件の顧客により即時に支払いがなされるものとし、いかなる場合であっても、そのような支払いを要請する本件の供給者による書面での通知から30日以内に支払いが行われなくてはならないものとする。本件の顧客は、本件の供給者により行なわれる全ての支払いに対して、本件の供給者に十分な補償を行なうとともに、本件の供給者が損害を被らないように確保する。これは、この条項に基づいて本件の顧客の責任とされる。

第12条 安全保障

第12条-第1項

本件の顧客は、認可を付与されたプログラムと関連資料の使用、監視、管理、および統制に対しての責任を自ら負担する。

第12条-第2項

本件の顧客は、認可を付与されたプログラムが、本件の目的に対して本件の供給者により認可を付与されていないあらゆる当事者によるアクセス*、使用もしくは濫用、損害、または破壊から常に保護されることを確保する。

第12条-第3項

本件の顧客は、認可を付与されたプログラムの使用、コピー、修正、およびその開示に関する正確な記録を保持する。本件の顧客は、本件の供給者が、顧客の通常の営業時間においてそのような記録をいつでも検査することを許可する。本件の供給者が要請する場合、本件の顧客は、そのような記録の全て、またはその一部のコピーを本件の供給者に対して提供しなければならない。

第13条 危険負担*

認可を付与されたプログラム、当該関連資料、および本件の供給者が提供した全ての資料/文書/媒体に対しての損失、または損害の危険負担は、効力発生日の時点において、本件の顧客に移転する。

第14条 機密性

第14条-第1項

本件の顧客は、認可を付与されたプログラム、本件の供給者、またはその顧客*に何らかの点で関連性を有した情報を、機密性を有した情報として取り扱わなければならない。

第14条-第2項

本件の顧客は、本件の供給者による書面での事前の同意なしで、そのような情報の詳細を第三者に対してコピーする、またはその開示を行わないものとし、あるいは第三者にコピーを行わせてはならない。

第14条-第3項

本件の顧客は、認可を付与されたプログラムが本件の供給者により合理的に予期される方法において使用されるための必要な範囲においてのみ、そのような情報の詳細を使用することができる。

第14条-第4項

本件の顧客は、認可を付与されたプログラムが本件の供給者により合理的に予期される方法において使用されるということを要請される被用者らに対してのみ、そのような情報の詳細を開示することができる。

第14条-第5項

本件の顧客は、この契約の履行から、あるいはその契約の履行において直接的、または間接的に生じたあらゆる発見、発明、特許、設計、もしくはその他の権利が本件の供給者の財産権に属するということを承認する。

第14条-第6項

この条項に基づいた本件の顧客の責務は、この契約の終了以降において継続的に効力を有する。

第15条 第三者らの権利

この契約の当事者に相当しない者は、契約法(第三者の権利)(Cap53B)に基づく、何らかの条項を施行するためのいかなる権利も有さないものとする。

第16条 知的所有権*

第16条-第1項

第16条の第2項、第3項に従い、本件の供給者は、認可を付与されたプログラムに関する本件の顧客の使用がシンガポールにおける著作権の侵害を構成するということを確定する、および本件の顧客に対して第三者により提起された訴訟手続きにおける何らかの最終判決に基づいた責任に対して、本件の顧客への補償を行なうものとする。

第16条-第2項

本件の供給者は、本件の顧客が以下の事項を行わない限り、第16条における第1項の条項において規定されるような顧客に対しての補償を行わないものとする。

- (a) 何らかの侵害、侵害の容疑、または侵害の疑惑について、できるだけ早く書面で本件の供給者に通知すること
- (b) 訴訟手続きの開始の以前に、和解、または示談に対する交渉を含んだ請求に対する防衛的行為を行なうための選択を本件の供給者に与えること
- (c) そのような請求に関する防衛的行為を行なうことにおいて合理的な援助を本件の供給者に与えること
- (d) 侵害が発生しないようにする目的で、本件の供給者の費用で認可を付与されたプログラムの修正、変更、または代替を行なうことを本件の供給者に許可すること、および
- (e) 認可を付与されたプログラムの使用、および占有を継続するための権限を本件の顧客のために取得するという点に関して、本件の供給者にその認可を行なうこと

第16条-第3項

本件の供給者は、何らかの侵害、侵害の容疑、または侵害の疑惑が以下に記載された事項から生じた場合、本件の顧客に対する補償を行わないものとする。

- (a) 本件の供給者により特別に承認されていないコンピューター・プログラムとの何らかの手段、および方法による組み合わせにおいて、その認可を付与されたプログラムの使用
- (b) 本件の供給者により合理的に予期されていない、または認可されていない方法、もしくは目的のための認可を付与されたプログラムの使用
- (c) 本件の供給者の書面による事前の同意なしで、その認可を付与されたプログラムの修正、または変更、あるいは
- (d) 本件の供給者の書面による事前の同意なしで、その認可を付与されたプログラムに関して本件の顧客により締結されたあらゆる商取引

第16条-第4項

本件の顧客は、以下に記載される事項に関して直接的または間接的かどうかにかかわらず、そのような侵害を申し立てる第三者による請求から生じたあらゆる損失、費用、支出、要請、または責務に対して、本件の供給者に補償を行なうとともに、本件の供給者が何らかの損害を被らないように維持する。

- (a) その請求が第16条における第3項の(a)から(d)までの条項において規定される事項から生じた場合
- (b) その請求に対する抗弁を行なう本件の供給者の法的能力が、本件の顧客の第16条第2項の規定の不履行により、侵害されている場合、あるいは
- (c) 本件の供給者が認可を付与されたプログラムを開発するために本件の顧客により供給者に対して提供された情報が、第三者の有する知的所有権*、または工業所有権*を侵害する場合

第17条 保証

第17条-第1項 限定的保証

本件の供給者は、認可を付与されたプログラムが本件の関連資料に従い実質的に作動するということを保証する。この保証は、効力発生日から1年間有効とされる。法律が許可する最大の範囲において、この製品に関して法律により課されるあらゆる保証は、同様に1年間に限定されるものとする。この保証は、認可を付与されたプログラムに関する瑕疵が事故、濫用、または誤用から生じた場合には、適用されないものとする。本件の顧客が、認可を付与されたプログラムがこの保証を満たさないということを前記の保証期間内において本件の供給者に通知する場合、本件の供給者は、その選択により、(i) 認可を付与されたプログラムに対して支払われた金額を返還する、もしくは(ii) 認可を付与されたプログラムを修理、または交換する。法律が許可する最大の範囲において、これは、この副次的条項において規定されるように機能するその認可を付与されたプログラムに関して、そのプログラムの何らかの瑕疵に対する本件の顧客の唯一の救済であるものとする。

第17条-第2項

前記の第17条における第1項のあらゆる条項にもかかわらず、本件の供給者は、以下の場合には認可を付与されたプログラムにおける何らかの欠陥を修復する責任を負担しないものとする。

- (a) 当該欠陥により、本件の顧客の仕様書、または第5条において明記される仕様書から著しく逸脱した認可を付与されたプログラムの作動が結果として生じないこと
- (b) 当該欠陥が、本件の供給者により書面で許可されていない認可を付与されたプログラムに対する変更、または修正の結果であること
- (c) 当該欠陥が、本件の供給者により書面で許可されていない機器、プログラム、またはサービスとの組み合わせにおいて、認可を付与されたプログラムの使用の結果であること
- (d) 当該欠陥が、本件の供給者により警告された操作の環境によるものを除いた、または本件の供給者の指示に従うものを除いた認可を付与されたプログラムの使用の結果であること、もしくは
- (e) 当該欠陥が、この契約、または認可を付与されたそのプログラムに関連性を有したその他のあらゆる契約に基づいた義務に関して、本件の顧客によるその不履行の結果であること

第17条-第3項

適用される法律により許容される範囲内で、本件の供給者は、本契約のどこかで明確に規定されている保証を除き、明示又は黙示又は制定法上のものを問わず、ライセンスされたプログラムと添付書類及びサポートサービスについてのあらゆる事項(権利についての保証、非侵害、市場性、特定目的への適合性等)について、一切の保証又は条件を負わない。本件の供給者は、本件の供給者が本件の顧客に特定又は紹介した、第三者のベンダー(ソフト等の供給者)又はコンサルタントによって供給されたサービスや製品については、本件の供給者と本件の顧客との間の書面による契約で責任が生じ得るサービスや製品が規定されない限り、規定された場合も規定された限度においてしか、責任を負わない。

第17条-第4項

前記における第17条の第3項の効力を制限することなしで、本件の供給者は、以下に記載される事項を保証しないものとする。

- (a) 認可を付与されたプログラムがいかなる欠陥も有さないこと
- (b) 認可を付与されたプログラムの使用が中断されないこと
- (c) 認可を付与されたプログラムが当該仕様書において明記されるもの以外の本件の顧客の要求を具備すること
- (d) 認可を付与されたプログラムが本件の顧客による使用に対して予定されるような組み合わせにおいて作動すること、または
- (e) 認可を付与されたプログラムが仕様書の中で明示されていない何らかの機能を提供すること

第18条 供給者の責任

第18条-第1項

この契約において反対の趣旨が明示的に規定されている場合を除いて、明示的、黙示的、制定法上の、またはその他のものによるかどうかにかかわらず、認可を付与されたプログラム、またはこの契約に対して何らかの点で関連した全ての契約の条項たる条件、保証、約束、誘因*、または表示は、除外されるものとする。前記の規定を制限することなく、本件の供給者は、認可を付与されたプログラム、またはこの契約に基づいた責務に従うことについての本件の供給者側の不履行、または不作為に関して、直接的、または間接的に受けた、または被った、あるいはそれらから生じたあらゆる原因による損失、または損害(間接的な損失、または損害を含む)について、その責任を本件の顧客に負担しないものとする。

第18条-第2項

何らかの制定法がこの契約の中に何らかの条項、条件、または保証を黙示的に含む場合、およびその制定法がそのような条項、条件、または保証に基づく責務の履行、または行使を除外、あるいは変更する契約の規定を無効、または禁止する場合、そのような条項、条件、または保証は、この契約の中に含まれるものとみなされる。しかしながら、そのような条項、条件、または保証のあらゆる違反に対する本件の供給者の責務は、本件の供給者の選択により、以下に記載されるいずれかの事項、または一つ以上の事項に対して限定されるものとする。

- (a) その違反が商品に関連する場合、
 - (i) 当該商品の交換、または同等の商品の提供
 - (ii) そのような商品の修理
 - (iii) 当該商品を交換する、または同等の商品を取得するための費用の支払い、または
 - (iv) 当該商品を修理するための費用の支払い、および
- (b) その違反がサービスに関連する場合、
 - (i) 当該サービスの再度の提供、または
 - (ii) 当該サービスを再び提供するための費用の支払い

第 18 条—第 3 項

本件の顧客は、本件の顧客が、この契約において、または本件の供給者により製造された何らかのカタログ、広告資料などのあらゆる文書において含まれた何らかの説明書、または例示、もしくは仕様書において明示的に表明されていない本件の供給者により行なわれたあらゆる表示に依存しないということを保証する。

第 18 条—第 4 項

適用する法律が許可する最大の範囲において、本件の供給者、または関連会社、提携会社の法主体ら、または供給者らのいずれの当事者も、何らかの契約、製品、調整、またはサービスに関連して生じたあらゆる間接的な損害（間接的、特別な、または付随的な損害、および利益または収入の損失、営業妨害、営業に関する情報の損失に関する損害を含むが、これらに限定されないものとする。）に対して何ら責任を負担しないものとする。これに関しては、そのような損害の可能性が存在することについて勧告された場合、またはそのような可能性が合理的に予見可能であった場合でも、それらのいずれの当事者も何ら責任を負担しない。

第 18 条—第 5 項

この契約における損害賠償に対するの責務の限定、および除外は、その責務が契約、不法行為（過失を含む）、および保証やその他の法律原則の違反に基づくかどうかにかかわらず、適用されるものとする。

第 19 条 不可抗力*

第 19 条—第 1 項

本件の供給者は、不履行、または遅延が不可抗力を原因として生じた場合、その責務を履行することに関する遅延、またはそれに関する不履行に対して何ら責任を負担しないものとする。

第 19 条—第 2 項

本件の供給者は、不可抗力のために予期された遅延に関して、できるだけ早く本件の顧客に対してその通知を行うものとする。この契約に基づいた本件の供給者の責務に関する履行は、不可抗力のために生じた遅延に相当する期間、一時的に停止する。

第 19 条—第 3 項

不可抗力のために生じた遅延が 15 日間*を超える場合、本件の供給者は、本件の顧客に対して通知をする時点においてこの契約を即時に終了させることができるものとする。本件の供給者が本件の顧客に対してそのような通知をする場合、

- (a) 本件の顧客は、引渡しが行われている場合、認可を付与されたプログラムの返却、または破棄に対する本件の供給者の指示に従うものとする。
- (b) 本件の供給者は、商品、またはサービスが提供されていないこの契約に基づいた本件の顧客により以前に支払われた金銭を返還するものとする。
- (c) 本件の顧客は、行なわれるサービス、または契約終了の以前に被った費用および支出に関連した合理的な金額を本件の供給者に対して支払うものとする。および
- (d) 本件の供給者は、もし該当する場合、第 19 条の第 3 項(b)において明記された金銭から第 19 条の第 3 項(c)において明記された費用、またはその一部の費用をその金額から控除することができるものとする。

第 20 条 契約の終了

第 20 条—第 1 項

この契約におけるあらゆるその他の条項を制限することなく、本件の供給者は、書面での通知により即時にこの契約を終了させることができるものとする。これに関しては、以下の事項をその条件とする。

- (a) (本件の供給者から本件の顧客による認可を付与されたプログラムの直接購入を含む商取引に関して) 本件の供給者に対して本件の顧客により支払われるべきあらゆる支払いが、そのような支払いが支払期限に至り、本件の供給者に対して本件の顧客により支払われるべきとなった以後の日から、未納/未払いとして存続すること、または
- (b) 本件の顧客がこの契約の何らかの条項に違反し、そのような違反が本件の供給者による書面での通知から 14 日以内に回復されないこと、または
- (c) 本件の顧客が認可を付与されたプログラムを処分すること

第 20 条—第 2 項

第 20 条における第 1 項の条項にもかかわらず、以下の場合には本件の供給者は、本件の顧客に対する書面による通知の時点において、この契約を即時に終了させることができるものとする。

- (a) 本件の顧客が何らかの形式の支払不能の財産管理に服する、服する恐れのある、または服する決定を行なう、もしくは服する危険性のあること
- (b) 法人である顧客が解散する、解散する恐れのある、または解散する決定を行なう、もしくは解散する危険性のあること
- (c) 自然人*である顧客が死亡すること、または
- (d) 本件の顧客が通常の方法における営業行為を停止する、または停止する恐れのあること

第 20 条—第 3 項

第 20 条の第 1 項、または第 2 項の条項に従い、通知が本件の顧客に対して与えられる場合、本件の供給者は、契約を終了することに加えて、以下に記載される事項を行なうことができるものとする。

- (a) 本件の顧客の所有、管理、または統制にある認可を付与されたプログラムのあらゆるコピーを取り戻すこと
- (b) 支払いが行なわれたあらゆる金銭を保持すること
- (c) 以前に金額が請求されていない業務に関して、遂行された業務に対して合理的な金額を請求すること
- (d) この契約に基づいた何らかの更なる責務から免れるものとみなされること、および
- (e) 法律により規定されるあらゆる付加的な、もしくは代替的な救済を請求すること

第20条-第4項

この契約の終了の時点において、本件の顧客は、認可を付与されたプログラム、関連資料、および認可を付与されたプログラム、関連資料の全てのコピーが本件の供給者に対して返却されるという書面による証明書を、要請次第、即時に本件の供給者に対して提供しなければならない。

第21条 譲渡

この契約の利得は、本件の供給者による書面での事前の同意なしで、(譲渡、第2次の認可、またはその他によるものかどうかにかかわらず)本件の顧客によりいかなる方法においても処理されてはならないものとする。

第22条 下請契約

本件の供給者は、本件の顧客による書面での事前の同意を取得することなくして、この契約の履行、またはこの契約に関する何らかの部分についての履行に関して下請契約を行なうことができるものとする。

第23条 権利放棄

第23条-第1項

この契約に基づきいかなる権利であっても、それぞれの当事者により署名される書面での通知による場合を除き、放棄されるとみなされないものとする。

第23条-第2項

第23条の第1項の副次的効果として、本件の供給者による権利放棄は、本件の顧客によるこの契約に関する何らかの以後の違反に関して、その権利を侵害しないものとする。

第23条-第3項

第23条の第1項の条項に従い、この契約のあらゆる条項を施行することに関して本件の供給者による何らかの不履行、または何らかの不作為、遅延、または本件の顧客に対して本件の供給者により付与された支払い猶予は、この契約に基づいた本件の供給者の権利の放棄として解釈されないものとする。

第24条 不可分契約*

この契約は、第1条に明記される内容に対して当事者間の不可分の契約を構成する。あらゆる事前の協議、契約、表示、または約束は、効力を有しない。この契約に関するあらゆる条項の修正、または変更は、それぞれの当事者により書面で署名されない限り、有効とされないものとする。

第25条 標題

この契約において使用される標題は、参照の便利さ、および安易さを目的とするものであり、この契約の一部に相当しないものとする。さらに、この標題は、この契約の意味、または解釈に関連性を有さないとともに、それらに影響を及ぼさないものとする。

第26条 可分性*

この契約のあらゆる規定が何らかの理由のために無効、施行不可能、もしくは違法と判示される場合、この契約は、そのような規定が削除されるものとみなされる規定を除いて、継続的に効力を有するものとする。

第27条 準拠法

この契約は、シンガポールにおける法律に準拠するとともに、その法律に従い解釈が行なわれるものとする。

第28条 通知

第28条 第1項

この契約に基づいた通知は、本件の供給者に関してはこの契約において、および本件の顧客に関しては本件の供給者の記録において指定された住所に対して、手渡し、書留郵便、テレックス、またはファクシミリにより送達されるものとする。

第28条 第2項

通知は、以下に記載される時点において付与されたものとみなされる。

- (a) 手渡し、もしくは書留郵便の場合においては、受理する当事者の役員、または正当に権限を付与された被用者、代理人、または代表者による書面での受理の認知の時点
- (b) テレックスの場合には、アンサー・バックの受理の時点
- (c) ファクシミリの場合には、送信完了の時点

第29条 争訟*

契約の実体性、有効性、または終了に関する何らかの質疑を含むこの契約から生じた、あるいはそれに関連性を有したあらゆる争訟は、シンガポールにおける国際仲裁裁判センターの仲裁裁判に関する規則に従い、シンガポールにおける仲裁裁判に対して付託*されるとともに、その仲裁裁判により終局的に決議が行なわれるものとする。この仲裁裁判に関する規則に関しては、規則がこの条項に対して参照により組み込まれる*ものとみなされる。この法廷は、シンガポールにおける国際仲裁裁判センター(SIAC)の所長が選任した一人の仲裁人により構成されるものとする。当該仲裁裁判における言語は、英語とする。本件の仲裁人の裁決は、終局的であり、拘束力を有し、かつ不可争的であるとともに、シンガポール、またはその他の国々におけるそれに関しての判決の根本原理として使用される可能性があるものとする。この司法管轄権の選択は、いずれかの当事者が、あらゆる妥当な司法管轄権において、知的所有権の侵害、または機密性に関する責務の不履行に関する差止命令による救済を求めるといことを妨げないものとする。

第30条 本件の供給者の権利

この契約に基づいて本件の供給者の権利に関するあらゆる明示的な表明は、この契約において明示的に陳述が行なわれる、あるいは法律上発生する本件の供給者のあらゆるその他の権利を侵害しないものとする。

Digital Artifact ® および Datasaver S™は、Digital Artifact Pte. LTD(1003 Bulkit Merah Central, #05-30, Bukit Merah Technopreneur Centre, Singapore 159836)の商標であるものとする。あらゆるその他の商標は、それぞれの所有者らの財産権に属するものとする。あらゆる権利は、ここにおいて留保されるものとする。著作権© 2005 Digital Artifact.

カスタマーサポートお問い合わせ先

お問い合わせ先

プリンストンテクノロジー株式会社 カスタマーサポート

電話受付

電話番号: 03-6670-6848
受付時間: 9:00～12:00 13:00～17:00
(土・日・祝日、および年末年始の指定日を除く)

FAX 受付

FAX 番号: 03-3865-5025
※ 翌営業日のお取り扱いとなります。お客様より頂きましたお問合せへのご回答は平日とさせていただきます。

Eメール受付

フォーム: <https://regist.princeton.co.jp/contactus/supportmail/nas.html>
※ お客様より頂きましたお問合せへのご回答は平日とさせていただきます。

お問い合わせ時のお願い

お問い合わせの際には、下記の項目を予めご準備いただき、カスタマーサポート担当者にお伝えいただきますようお願い致します。

- | | |
|------------|------------------------|
| ・製品のモデル名 | ・datasaver S OS のバージョン |
| ・製品のシリアル番号 | ・クライアント PC の OS の種類 |
| ・ご購入日 | ・故障や不具合の発生日 |
| ・ご購入先 | ・故障や不具合の内容 |
| ・お客様のご連絡先 | ・その他アプリケーションの種類やバージョン等 |

プリンストンテクノロジー株式会社

Copyright©2013 Princeton Technology, Ltd. All Rights Reserved.